

S h o d a i R e v i e w

商大 レビュー

Vol. **27**
2018.3

公開講演会

平成29年度 岡山市

大学生まちづくりチャレンジ事業 採択事業

**思いやりで社会を変える。
飲酒運転ゼロを目指して!**

NPO法人はあとスペース 代表 山本 美也子氏

04

経済学部 <金融コース> 開設記念公開講演会

**金融リテラシーの
現状と課題**

～NISAの進展を含めて～

前日本証券業協会会長

野村アセットマネジメント(株) 顧問 稲野 和利氏

14

産学官連携センター受託研究

●「おokayama大学生中山間地域等研究・連携促進事業」
地域の課題解決と観光の融合の実現に向けて

17

平成29年度私立大学等改革総合支援事業4タイプ採択

文部科学省・平成29年度私立大学研究ブランディング事業採択

「『寄り添い型研究』による地域価値の向上」

I n d e x

- 02 巻頭言 「人本主義社会と私学」
岡山商科大学 学長 経営学博士 井尻 昭夫
- 03 「夢に向かってチャレンジを ～一歩一歩が未来を切り開く～」
山陽放送株式会社 代表取締役社長 桑田 茂氏
- 04 公開講演会 「思いやりで社会を変える。飲酒運転ゼロを目指して!」
NPO法人はあとスペース 代表 山本 美也子氏
- 14 公開講演会 「金融リテラシーの現状と課題～NISAの進展を含めて～」
前日本証券業協会会長 野村アセットマネジメント株式会社 顧問 稲野 和利氏
- 16 公開講演会 各講演会紹介
「学会学術公開講演会」 経営学部経営学科 教授 長田 貴仁
第4回「投資家と学生のための会社説明会」 社会総合研究所 客員教授 近藤 一仁
「学会学術公開講演会」 経営学部経営学科 准教授 陳 惠貞
- 17 産学官連携センター受託研究
受託研究 「地域の課題解決と観光の融合の実現に向けて」
調査分析担当者 経営学部商学科 教授 三好 宏
- 18 フィールドスタディ フィールドスタディの取り組み
- 20 日生カキオコフィールドスタディ
経営学部商学科 教授 三好 宏
- 20 大学生と生産者との交流による里庄まこもたけ収穫体験事業
経営学部商学科 教授 三好 宏
- 21 プレゼン発表会 第6回経済学部ゼミ対抗
プレゼンテーション大会 について
経済学部経済学科 准教授 山下賢二
- 22 包括協定 2017年度包括協定
- 23 ブランディング事業 文部科学省 平成29年度私立大学ブランディング事業採択(3年間)
『寄り添い型研究』による地域価値の向上
- 26 科学研究費助成事業 科学研究費助成事業への取り組み
- 27 文部科学省補助金 平成29年度私立大学等
改革総合支援事業 4タイプ採択

29 大学コンソーシアム岡山

「日よび子ども大学」
環境について考える「エコナイト」

30 キャリアセンター

2019年3月卒の就職活動
就職活動解禁日(3月1日)を目前にして
慌ただしさ目立つ!

31 高大連携

訪日中国・台湾人観光客を対象とした
販売実習の取り組みについて

倉敷市立精思高等学校 校長 寺岡 直樹
教諭 矢吹 志郎
教諭 橋本 英俊

33 教員免許状更新講習

教員免許状更新講習について
教職課程を履修して

34 海外との交流

- ハンゲル研修について
- 中国語学研修について

35 金融リテラシーの推進支援

「第4回キッズビジネスパークin岡山」への参加
コラム/金融リテラシーとは?

36 竹灯籠づくり/テクノロジー展

竹灯籠づくり(真庭市社地区)
おかやまテクノロジー展2018に出展して

37 慶應MCC 夕学講座

『夕学(せきがく)五十講』(東京開催)を
インターネットで中継配信

39 商大講座

2017年度「商大講座」メニュー一覧

41 学術トピックス

著書紹介
「セコム」
経営学部経営学科 教授 長田 貴仁

42 商大の新しい動き

「経済学科金融コースの開設」
経済学部長 田中 勝次

43 岡山経営者論

(一社)岡山経済同友会とタイアップした
「経営人材育成プログラム」

44 観光振興論特殊講義

「学ぶ心・礼節の本源」
経営学部商学科 講師 ソ ユンゾン

45 孔子学院

2017年度 岡山商科大学孔子学院
設立十周年記念式及び伝統芸術鑑賞会

47 「商大塾」

2017年度の商大塾を振り返り
社会総合研究所 次長
経営学部商学科 准教授 海宝 賢一郎

48 資格試験講座

資格試験講座一覧、合格者の声

50 研究所から

後援会及び後援会役員会について
所長挨拶
岡山商科大学社会総合研究所後援会について



「人本主義社会と私学」



岡山商科大学 学長
経営学博士

井尻 昭夫

このところ政治の世界も経済社会もおかしな空気が漂っている。公文書書き換えがまかり通っている。権力があればどのようなことでもやってよいのかという意見が出されると、その瞬間に我に返り、ノーという返事が誰でも返ってくる。それでありながら、現実には書き換えを指示されれば、そのように動かないといけない風土が根強く育っているのが官庁なのであろうか。指示を命じられた者は自責の念に駆られ、命を絶った。それほどまでに腐りきった事件が明るみに出て初めて事の重大さに我に返り、事態の收拾を責任転嫁で切り抜けようとするずるっこい人間もいる。いま一つ、総理の夫人であることから「神の声」と言わんばかりにそれを受け入れ、またそれに追従した結果が反社会的な行為として社会的な批判を浴びている。

権力にすぎり世渡りする人間よりは、少々ドジであろうとも明朗で人間性豊かな人間であることが望まれるであろう。所詮、人間のやっていることに大きな違いは出ないのだから、学歴に固執する姿勢を脱却する必要がある。

「虎の衣」に頼ることなく、自分の実力で時代を泳ぎ切ることが望まれる。こう考えてみると私学こそ本当の教育ができる場ではないだろうか。

高学歴を持たない親が息子や娘だけは大学にやりたいということで大学進学率は57.3%まで増えてきた。その背景にある、子供は少なく厚く教育を施して……という考えが少子化を招いた一つの要因である。しかし、大学を出たが期待していたほどのことはないという挫折感が生まれれば、能力に応じた実力の社会となるのであろうか。

今日の社会では、古い処世術にしがみつき、「虎の衣」

を活用して世渡りをする人物もいる。「砂上の楼閣」のごとく、一つほころびが出ると全体が崩れ去ることも早い。こう考えれば、別の道を歩むのが一番の得策のように思うのは誰しもであろう。その別の道とはいったい何であろうか。「虚」から「実」は生まれない。そうであれば「実」を採る姿勢が必要であろう。自主独立という姿勢がいつも堅持されなければならないと考える今日この頃である。

ところで、少子高齢化社会の到来は昔から予測されていたことである。その時代になって初めてどこに問題があるかを知るような状況が一般的である。少子化社会は18歳人口の減少を招くことから経営難に陥る。私立大学は効率化することで克服するものもあれば、大きな大学に吸収される大学もある。そうした場合、そもそもの創設の理念が失われることは歴然としている。そこにむなしものを感じる。というのも、国公立大学は創立の精神というものがあるにせよ希薄である。したがって、そうした場で学ぶ学生も人間的な味を身につける機会が失われ頭でっかちな人間が生まれる。AIが普及し人間に取って代わる時代がやってきたが、機械の論理が支配する社会にどっぷり漬かるならば、人間性豊かな教育ができないとは言わないが、無色無臭の味気ない人間がつけられるのではなかろうか。極論ではあるが、多くが国立東京大学出身者で占められる日本の政府官僚。東大でなければ官僚は務まらないというほどの印象を国民に与えているといっても過言ではなかろう。やがては真に能力主義が台頭してくるだろう。形式を尊重する肩書社会は後退し、実力主義のもと、精神的に豊かな人材育成を図る私学の時代が来るだろう。

夢に向かってチャレンジを ～一歩一歩が未来を切り開く～



山陽放送株式会社
代表取締役社長
桑田 茂氏

山陽放送は2018年に開局65年、テレビ放送60年の節目の年を迎えました。この間、放送業界は大きく様変わりし、テレビはアナログ放送からデジタル放送に、そして今4K・8Kといった超高画質時代を迎えようとしています。また、AMラジオもFM補完放送に乗り出すことで、よりクリアな音声で聞くことが出来るようになりました。加えて、スマートフォンやパソコンでも聴取可能な「radiko（ラジコ）」により若者のラジオ離れに歯止めがかかり、「ラジオの面白さが再認識されるようになった。」と言われていきます。様々なメディアが溢れる中、テレビの力・ラジオの力は無限だと言っても過言ではないでしょう。

しかし、放送業界が同じことをしていたのでは未来は開けません。『時代が求めているものに、敏感に対応して行かなければならない。』と思っています。『テレビ・ラジオに何が求められているのか?』時代に即したイノベーションを常に考えなければなりません。

山陽放送は今年、新社屋の建設に着手します。建設場所は岡山市北区天神町で、南隣に岡山市立オリエンタ美術館、北隣に岡山県立美術館といった文化・カルチャーゾーンの中心となります。地上4階建てのスタジオ・事務フロアに加え、屋上にはミニイベントも開催できるようテラスも設けます。1階のロビーフロアは、全面ガラス張りの開放感あふれたものにします。テレビのメインスタジオのほか、能や狂言など多彩なイベントも開催できるよう、

「能舞台」も備えています。もちろん、能舞台を備えた放送局は全国初です。岡山藩の池田家は、能や狂言などの伝統文化・茶の湯を家臣ばかりではなく、庶民

にも広めたと言われていますが、放送局として『伝統文化を後世に伝えていく必要がある。』との思いから、「能舞台」を備えることにしました。加えて、ロビーフロアではイベントのほか公開録画・録音など、様々な対応が出来るようになります。現在の放送会館では不可能だったことが可能となります。新館建設への夢は膨らむばかりです。

竣工はオリンピック開催に湧く2020年を予定しており、放送開始は2021年の予定です。再開発計画が進んでいる岡山駅周辺エリアから表町商店街、さらには岡山城・後樂園などを結ぶ回遊性の向上に貢献できるものと確信しています。テレビ・ラジオの力を結集して、街づくり・観光客誘致などなど…活性化貢献に夢が膨らみます。

「地域とともに」が山陽放送の社是であり、これからも地域の皆様に愛されるよう100年企業を目指して取り組んでまいります。私は、社員に「夢を持って仕事をしてもらいたい」とお願いしています。一つの夢でも、たくさんの夢でも、どんな夢でも構わないのです。叶う夢ばかりではないかも知れませんが、夢の実現に向けてチャレンジすることで、人は一回りも二回りも大きく成長し、未来を切り開くことが出来るものと信じています。

学生の皆さんは、社会人になるための準備を進めている人も多いかと思いますが、企業の多くは夢を持った熱い人材を待っています。大学生活を思い切り楽しみながら、どんな社会人になりたいのか?また、どんな夢を実現させたいのか?熱い思いを持ち続けてチャレンジしてもらいたいものです。

平成29年度 岡山市 大学生まちづくりチャレンジ事業 採択事業

思いやりで社会を変える。 飲酒運転ゼロを目指して!



NPO 法人はあとスペース
代表

山本 美也子氏

1. 学生発表

被害者支援サークル「つぼみ」

犯罪被害者支援大学ボランティア連絡会

「あした彩」

それでは、これから被害者支援サークル「つぼみ」による学生発表をさせていただきます。

岡山商科大学では、今年度、被害者支援サークル「つぼみ」が発足し、現在は20名で活動しています。犯罪被害者やご遺族の方は、どうしようもない悲しみや怒り、さまざまな気持ちを抱え込んでしまい、頑なに閉じこもったような状態になってしまいます。しかし、そうした方々をいつか必ず花開くつぼみに例え、犯罪被害者やご遺族に寄り添い、花を咲かせてほしいという思いを込めて、サークル名を「つぼみ」と名付けました。

被害者支援を多くの人に知ってもらうため、メディアによる広報を行いたいと考え、中四国で3万部発行されている『OKAYAMA MOVE UP』のフリーペーパーと、FM岡山のフレッシュモーニングオカヤマの「Shodai Style」に出演させていただきました。被害者支援ボランティアの活動内容や、これからの目標についてお話ししました。このように、情報を発信することも大切な支援だと思います。

10月に行なわれた商大祭では、模擬店と募金活動を行ないました。模擬店での売り上げは犯罪被害者支援基金に全額寄付する予定でしたが、台風の直撃により2日目は全部の模擬店が出店中止になってしまいました。しかし、この活動を学校側が認めてくれて、特別に2日も募金活動は続けさせていただけました。支援の輪が広がった瞬間で、とてもうれしく思いました。

また今年度は、大学生が地域において取り組む活動に対して岡山市が補助金を交付し支援する「大学生まちづくりチャレンジ事業」に応募し、採択されました。初めてのことで右も左も分からない状態でしたが、自分たちの手でやり遂げたいと思い、小中学生を対象とした「遺族講演会」を企画しました。これまでさまざまな講演会を聴講する中で、もっと若い世代にも聞いてもらいたい、命の大切さや思いやりの大切さを改めて知ってほしいと考え企画しましたが、大学生だけでは受け入れ先の小中学校がなかなか決まらず、く

やしい思いを何度もしました。そこで岡山市教育委員会の後援をいただくなど様々な方々の協力を得て、無事聴講して下さる中学校も決まりました。参加してくれた子どもの心に残る講演会を私たちの手で実現したいです。今回の活動を通じて思ったことは、大学生だけではどんなに良いことをしようと思ってもなかなか受け入れてもらえないことが多いということです。近い将来、大学生と地域が連携をし、被害者支援活動をすることが当たり前である社会になってほしいと思います。

一年前、大学生によって3歳の娘さんを殺害されたお父さんは、「事件後は、娘の所に行くことだけ、自殺することだけ考えて生きていた。」と講演会で話されました。長男が大学生になった今も、大学生を受け入れることができず、とても嫌な存在だったそうです。しかし、私たちが行なっている活動や、被害者ご遺族の気持ちを少しでも理解し、寄り添っていききたいという私たちの気持ちに接して下さり、「生きていてよかった。希望の光が見えた。本当にありがとう。」と言って下さいました。このお言葉を頂いて、「私たちの活動で救われる人がいる。」と思うことができました。これからも、少しでも被害者の方々の気持ちに寄り添えるよう頑張っていきたいと思います。

次に、環太平洋大学の活動について説明します。環太平洋大学では2016年に爽志会を結成し、学内の安心・安全の確保を求めることを皮切りに、校外でも多様に活動しており、なかでも犯罪被害者支援活動に特に力を入れて取り組んでいます。犯罪被害に遭われた方やご遺族の方の気持ちを知らずに犯罪被害者支援などできるわけではないという思いから、まずは多くの講演を聴講し、犯罪被害に遭われた方やご遺族の方の気持ちを知ることから始めました。多くの講演を聞くうちに、犯罪被害者支援についてもっと多くの人に

PROFILE

NPO法人はあとスペース 代表

山本 美也子氏

障害者も健常者も一緒に楽しく生活できる思いやりスペース作りを目指し、2010年3月「NPO法人はあとスペース」を設立。車いす優先駐車場のマナー啓発運動や、障害者スポーツの支援などを行う。

当時16歳の長男(寛大)とその友人を、飲酒運転事故により奪われる。その後より、飲酒運転撲滅活動を始め、命の大切さや、被害者も加害者も作らない事などを訴え、講演活動を行っている。

知ってもらいたいという強い思いが芽生えました。山陽東小学校において、6年生と瀬戸南高校と爽志会で、遺族講演会を聴講しました。聴講後、もし自分がいじめの傍観者ならどうするかなどを話し合いました。小学生の意見を聞くなかで、命の尊さやいじめについて真摯な気持ちで向き合い、どうにかしないといけないという態度に感心するとともに、このような心を育てていくのは、将来のわれわれの役割だと感じました。実際に犯罪被害者の遺族の方から話を聞くという貴重な機会です。これまで考えていた「犯罪被害」ということに対しての視野が広がったように思いました。

また、昨年3月に千葉県で起こったベトナム国籍の小学3年生のレ・ティ・ニャット・リンちゃんが行方不明になり、2日後に遺体となり見つかった事件の被害者遺族に対し、本学のベトナム人留学生が爽志会とともに支援活動を行ないました。大学生にできることは本当に限られていますが、その中でいかに支援していくかを考えた結果、今回は千羽鶴と募金活動で集まった支援金、留学生が書いた手紙、そしてリンちゃんが好きだったドラえもののぬいぐるみも一緒に送らせていただきました。また、「ホンデリング」という、要らない本を集めて売ったお金を、犯罪被害者支援団体に送るという活動があります。今後、さまざまな工夫を凝らして多くの本を集め、被害者支援活動への支援金へつなげていければいいと考えています。

次に、ノートルダム清心女子大学からの報告です。昨年10月11日にIPU（環太平洋大学）で開催されたフォーラムで、「岡山県内居住の殺人事件ご遺族による講演会」がありました。講演をして下さったご遺族の方は、お子さんが被害に遭ってからまだ日があまりたっていないため、状況を整理するのが難しいにもかかわらず、意を決して私たちのために講演して下さったことは絶対に忘れてはいけないことだと感じました。ご遺族の方がおっしゃっていた「苦しみを与えるのも、支援を行ない心の傷を癒やしてくれるのも“人間”である。」という言葉に、自分はそのどちらにも当てはまりうのだと気づかされ、非常に衝撃的でした。

また、時間が経っても、被害者や遺族の方は第二、第三の加害者であるマスメディアやSNSによって被害を受け続けるという状況があり、これは絶対に無くさなければいけないことだと思いました。講演者の方も願っておられましたが、知る権利や報道の自由があるのなら、知られたくない、そっとしておいてほしいという権利もまた、被害者、被害者遺族にも必要ではないかと思いました。

以上のことから、自分たちができることは何かを考えました。被害者の方と同じ年代で今を生きる私たち大

学生が、犯罪被害者支援の先駆者として、被害者やその関係者の方を第二・第三の加害者から守るために、被害者側の心の声を発信していく役割を担うことが重要だと考えます。「あした彩」という名前の由来にもあるように、真っ黒になってしまった被害者の方やご遺族の方の心のキャンバスを、明日へと続く明るい光のような色に塗り替えられるように務めていきます。

続いて山陽学園大学の報告です。ボランティアサークル・あいの中の「犯罪被害者支援チーム」に所属する、現在32名のメンバーが活動しています。この写真は被害者支援を勉強するゼミのメンバー8名で、本日講演して下さる福岡県にお住まいの山本美也子氏が代表を務めておられるNPO法人はあとスペースにおじゃましたときのものです。一昨年玉島警察署にて、平成23年京都府で発生した居眠り無免許運転における交通事故のご遺族である小谷さんの講演会を聴講したことをきっかけに、小谷さんの家族を想う気持ちや皆さんに娘さんの事故のことを伝えたいという思いから、被害者である真緒ちゃんの命をつなぎ、小さい子どもたちに命の大切さを訴える人権啓発活動がしたいと思い、デジタル紙芝居『まおちゃんの新しい靴』を作成し、園児・児童への読み聞かせを行なっています。

今後の活動としては、英語バージョンの作成、耳の聞こえない子どもたちにも見てもらえるように字幕表示を作成し、誰にでも読んでもらえるように絵本版も作成し、もっと広めていこうと考えています。

この活動に、小谷さんは「命のバトンが繋がった。」と言って下さり、山陽学園大学での遺族講演会に講師として来ていただけることになりました。また、講演会後には、デジタル紙芝居『まおちゃんの新しい靴』の読み聞かせも行ないました。この紙芝居を知らない地域の方々や、知っていても見たことがなかったたくさんの方に、この話を聞いていただけるいい機会になりました。当日は約200名の聴講者が集まり、たくさんの方に小谷さんの話と私たちの紙芝居を見てもらうことができました。聴講した方からは「これからはがんばってね。」と応援の言葉をいただき、これからはこの活動と山陽学園大学での遺族講演会を続けていきたいと思いました。

また、11月26日に京都で行なわれた「命のメッセージ展」で、この紙芝居を3回披露しました。真緒ちゃんのお父さんだけでなく、お母さん、お姉ちゃん、妹も友達をたくさん連れて見に来てくれました。さらに、京都の大学生ボランティアさんや他の遺族の方とも意見交換し、これからは府県を越えてたくさん活動をしていければいいなと思いました。

続いて、川崎医療福祉大学です。昨年6月に川崎医療福祉短期大学で、遺族講演があると聞き、本学でも

被害者支援を理解してもらえればいいチャンスだと思い、短大にお願いして、本学の学生が聴講できるようにしていただきました。心理学科から、10名の学生が参加してくれることになりました。聴講した学生からは、「被害に遭われた人全員は救えないかもしれないが、自分にできる限りのことはしたい。」といった意見や感想が多く寄せられ、ボランティアに参加したいという学生が現れ、現在では19名の学生が活動をしています。

デザイン学部では「被害者の手引き」を作成しました。警察の方から、犯罪被害者支援の話聞き、その際に、「被害者の手引き」のご依頼があり、制作させていただきました。実際に警察が使っている「被害者の手引き」は文字が多く、どこが重要な項目かも分かりづらいものだと感じました。モノクロだったので、冷たいイメージもありました。手引きを作る際、一番気を付けたことは、被害に遭われた方でもすっと引き込まれる分かりやすいもの、文字ばかりの印象をもたれないような色彩やデザインにしようということでした。完成したこの手引きが、今後被害に遭われた方の心の不安を少しでも解消できるものになればと思いますし、これから先の事を考えられる一冊になってほしいと考えています。

続いて、岡山県立大学から、10月8日に大阪で行なわれたWiLLに参加して考えたことについて報告します。「WiLL」は少年犯罪被害当事者の会が主催しているものです。少年犯罪被害当事者の会とは、少年によって最愛の子どもを失った家族の会です。1997年に会ができてから、子どもを殺された遺族が中心になって、少年犯罪被害者の現状を話しつつ、少年法の問題と理不尽な体験を各本面へ話されています。第一部では、遺族の方からのメッセージがありました。第二部では、犯罪被害者基本法から10年以上が経過しても、なお国や社会の支援が加害者に比べて十分ではない実態を改めて考え直すことをテーマに、ディスカッションが行われました。

この会に参加して、このような事件が実際に起きていることにショックを受けました。また、被害者に対する制度が整っていないこと、民間の支援やボランティアだけではまかなえない支援があることが分かりました。自分たちが学び、考え、共有して、支援の輪を広げることで、早急な制度化につながればと思いました。

会の代表である武り子さんは、「被害者を傷つけないとよく言われていますが、なにか腫れ物に接するのではなく、普通に接してほしいと思います。でも、被害者遺族は、被害者を支援する人を傷つけないと考えています。まずは話を聞いてください。一緒に考えてください。」とおっしゃっていました。「被害者遺族は、被害者を支援してくれる人を傷つけ

てはいけない。」という言葉は、私たちにとって意識になかったことで驚きました。誰も人を傷つけてはいけないという当たり前のことが、とても難しいことに気づかされる言葉でした。今回、大阪での開催にもかかわらず、WiLLには多くの岡山の学生が参加していました。今後は、他県とも協力して活動し、支援の輪を広げていきたいと考えています。

続いては、岡山大学の活動報告です。犯罪被害者支援シンポジウムと、被害者支援の活動の二点について、お話ししたいと思います

まず、犯罪被害者支援シンポジウムについてですが、平成26年度から岡山大学で行なわれており、今年で4回目の開催になります。第1回シンポジウムでは「被害者にも加害者にもならないために」と題し、大学生にとって身近な問題となり得る交通事故犯罪を取り上げました。公益社団法人被害者支援センターの事務局長であり、全国被害者支援ネットワーク理事でもいらっしゃる和氣みち子さんにご自身の経験や支援活動について講演をしていただいたり、パネルディスカッションを行なったりしました。

第2回シンポジウムは、「被害者遺族の思い」と題し、岡山大学大学院教授で弁護士の方から吉沢先生に、刑事手続きについての講義をしていただいた後、岡山市で起きた殺人事件の被害者のご遺族で全国犯罪被害者の会の加藤裕司氏に講演をしていただきました。その時は少人数ではありましたが、他大学で被害者支援をしている学生にも参加を呼びかけ、岡大の学生と共にテーブルごとに別れて、参加者全員によるグループディスカッションが行なわれました。

第3回シンポジウムは、保護制度や性犯罪における現状を弁護士や警察の方からお話ししていただき、その後、家庭内において長年の間、性的虐待を受けた被害者の方から「苦しみを越えて光ある場所へ」、また被害者のご主人から「支援する家族の立場から」という講演をしていただきました。性犯罪被害がどれほど人の人生を狂わすものなのか、そしてどれほどの苦しみを背負って生きていかなければならないのか想像もつかない世界で、心が真っ白になりました。このシンポジウムには約120人が参加し、講演終了後はグループに別れ、講演を聞いて何を感じたか、自分たちに何ができるのかについて討議しました。

そして、第4回シンポジウムのタイトルは「被害者の声を受け止める ～寄り添うために私たちにできること～」というもので、今回のこのシンポジウムは大学生が意見を出し合い、企画しました。また、岡大の被害者支援ボランティアは学部の先生や友達につながり、県警の方の講義などで人数が集まり、現在は14人で活動し

ています。全員初心者で始まり分からないことばかりですが、打ち合わせやフォーラム等への参加、チラシ作成等、みんなが積極的に参加しています。

被害者支援については、11月18日、中国自動車道で岡山大学4回生の女性とのお母さんが亡くなられる事故がありました。ニュースで見た時、本当に身近なことでありすぎて言葉が出ませんでした。今は亡くなった方の友だち、ご家族、そして何よりも妹さんのことが心配でなりません。答えはまだ出ていませんが、被害者支援について改めて考えてみます。

初めはさまざまなフォーラムに参加したり、犯罪被害者支援養成講座に参加したりして、犯罪被害者支援についてより深く学びました。犯罪被害者支援について学べば学ぶほど、「もっと犯罪被害者支援の輪を広げたい。」「私たちでもできる犯罪被害者支援をしたい。」「私たちがでもできる犯罪被害者支援をしたい。」という思いが強くなり、それぞれの大学へ、大学の色を出しながら大学生でもできる支援のかたちをつくり、今日まで取り組んできました。ニュースで多くの事件が報道される中、被害者支援活動を行う前までは、「また事件か。」と人ごとのように思うだけでした。しかし被害者支援活動を行うようになってからは、「なぜこんな事件が起こり、いっこうに減らないのか。」と憤りを感じたり、被害に遭われた方や遺族の方にも何も出来ないというもどかしさを感じ、ニュースで流れる事件さえ人ごととは思えなくなりました。被害者支援活動をすることで、見える世界が変わったかのように思います。今まで被害者支援活動で感じてきた思いを大切に、今後も支援活動を行っていきたいと思います。

以上で終わります。



2. 公開講演会

山本：皆様、こんにちは。山本でございます。今日は皆様方の大事なお時間に私にお話をさせていただく機会をいただきまして、ありがとうございます。最後まで真心を込めてお話しをさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

まず、いま大学生ボランティアの皆さんのたくさんの活動報告を聞かせていただき、それだけで私は今日

伺って良かったと、とてもうれしく思いました。若い世代の皆さんが、被害者の声を聞くということはとてもつらく大変なことなんです。でも、若い皆さんに聞いていただけなければ、安全な社会をつくることはできません。こうやって若い皆さんに聞いていただきながら、被害者も加害者もつからないそんな世の中になるようにしていきたいと思っております。私はこの岡山県が全国で一番をこういう大学生のボランティアが進んでいると思っておりますし、こうして大学の皆さんの前で話しさせていただく機会をいただき、本当に有り難いと思っております。

先ほどご紹介いただきましたように、私は2011年2月9日のこと、つまり来月で事故から7年になるわけですが、当時16歳の長男を、飲酒運転ということであつという間に奪われてしまった被害者遺族です。ある日突然被害者遺族になって、本当に大変でした。分からないことばかりで、誰に聞いていいのかわからず、誰を頼っていいのかわからず本当に大変な時間でした。でも、一人で生きてきたわけではありません。多数の皆さんに支えてもらって背中を押されて今までできました。その背中を押して下さったのが今日のボランティアの皆さんです。岡山県警の藤原さんです。今もこうやってつながっている皆様方だと思っています。

ここでちょっとわが家の主人を紹介します。主人は車いすに乗っています。なんと20歳の時の交通事故のためです。ですから、主人も被害者なんです。20歳の時にバイクに乗っていて、後ろから乗用車に追突されて、中央分離帯で背骨をぶつけ、その日から30年間ずっと車いすに乗っています。でも、主人はスポーツを頑張る障害者になりました。腕だけで42.195キロを走り抜く車いすマラソンのアスリートをしています。練習はとても過酷です。朝40キロ、夕方40キロと、一日80キロも走っています。こんな人を博多弁では「馬鹿ぢんではないか。」というのですが、本当に大丈夫かなと思います。でも一昨年行われたリオデジャネイロパラリンピックにも日本代表で出場し、来週はドバイマラソンに行つて「世界新記録をねらうぞ。」と言っております。今は世界ランキング3位になっています。52歳ですが、本当に頑張っています。

障害者で頑張り抜く主人をいつもすごいなと思ひながら見ているのですが、実は社会生活の中では少し困つたなということがあります。それは、車いす優先駐車場のマークが描いてあるスペースに、なかなか障害者の方が車をとめられないということがありました。私は今まで、「すみません。そこは車いすの人がとめる所なので、とめないでください。」と文句を言つてけんかをしていました。でも、怒られるのはいつも私の方でした。

「今日はおれだって足が痛いから、障害者だろう。」と言うのです。歯がゆく思いながら、けんかをしていました。

その他のことでは、バスに乗るのも大変です。主人は一步も歩けませんから、はってバスに乗り込みます。そのあとに車いすを乗せるので時間が掛かりますから、バスのお客さんから文句が出るのです。「早くしてくれんか。」と言われると、私も負けてなくて「障害者でもバスに乗りたいたきは乗るんだ。」と大声でけんかをしていました。そうしているうちに、けんかをしても状況はちっとも変わらないということに気づいて、自分なりに一生懸命考えて行動を少し変えてみました。まず、どうして障害者の人に、あの広い幅のあるスペースの駐車場が必要なのかを知ってもらおうと考えたのです。世の中にはいろんな人が一緒に生活しています。わが家のような車いすで困るようなことは、車いすの人が言うのが一番です。目の見えない世界は、視覚障害者に聞くのが一番なのです。耳の聞こえない人から、全く音のない世界を聞くことも大事です。ですから、車いすで困っていることは、車いすの人に聞くのが一番なのです。主人は車いすに乗っていますが、自分で車も運転します。ドアを全部開けなければ、中から自分で車いすを降ろすことができないので、あの広い幅が必要なんです。普通の駐車場では、車は止められても、ドアが全部開けられなければ中から降りてくることはできません。それで、広い幅が要るということを多くの皆さんに知ってもらおうと思いました。

そして、私の行動も改めようと思いました。文句を言う前に、「ありがとうございます。」とたくさん言うようにしたのです。「車いす優先駐車場」では「止めさせてくださいありがとうございます。」と私の方から声を掛けると、お店の人も頑張ってくれるようになりました。バスに乗る前に、「今から障害者の人がバスに乗りますから、時間が掛かります。でも、一緒にバスに乗せてもらってありがとうございます。」と私から声を掛けると、中から手伝ってくれる人が出て来ました。そうやってきちんと説明して「ありがとう」と言うだけで、物事というのはスムーズに進むんだなと思いながら活動していた1年後に、わが家の長男の事故があったのです。



どんなことがあってもすぐに「ありがとう」が言える自分になりたいと思っていました。何があっても「あり

がとう」が言える脳みそになりたいなと、ずっと脳を鍛えていました。だからでしょうか、長男の最後の姿を見たそんな時でさえも、「こんなにきれいに包帯を巻いていただいて、ありがとうございます。」とお医者さんと看護師さんにお礼が言えたのは、日ごろから頑張っていたおかげかなと思っています。

最初にご覧いただくのは、主人の頑張っている姿と、実は私どもは障害のある子どもたちの陸上教室をたくさん開催しておりまして、まずはNPO法人はあとスペースの活動の紹介の映像を見ていただきたいと思います。

(約3分:山本浩之氏の車いす競技の様子と、障害のある子どものスポーツ教室の活動の様子のビデオを上映)

山本：どんなに傷害を持って生まれても、2歳ぐらいになると車いすに乗り始めます。野球がしたいとかサッカーがしたい、人より早く走ってみたいという願いをかなえてあげられるのは、私たち大人の役割だと思っています。子どもたちが乗っている競技用の車いすはかなり高く、驚くことに一台35万円もするのです。そこで、私たちのようなNPO法人が企業の皆さまから寄付をもらって、レーサーに代えていく。子どもたちがマラソン大会などに出て、いろんな所で活躍する場も広げていきたいと思い活動をしています。

それでは、今から2011年2月9日に、わが家に起こったことを話していきたいと思います。2月9日はとても寒い日でした。私は近くの小学校で読み聞かせのボランティアを15年しています。その日だけは、朝早くに家を出なければいけません。長男は寛大(かんた)といいいますが、寛大のオシリをパーンとたたいて、「今日は母さんは早くから家を出るよ。」と言いました。顔も見ませんでした。声も聞きませんでした。「朝ごはんはここよ。」と言いながら、バタバタと私だけ先に家を出ました。読み聞かせを終えてNPO法人の話し合いをし、昼の15時から19時までには看護師として病院で働いていました。その日、私は院長先生に「長男は明日高校のマラソン大会があるので、今夜は友達の家泊まりに行くんですよ。」と言ったのを覚えています。

2月10日は毎年高校のマラソン大会で、長男は友達の家からマラソン大会に行く予定になっていました。夜の11時23分に、私は長男にメールを打ちました。「明日のマラソン大会には、ちゃんと遅れないようにして行くのよ。」といういつもの母からのメールです。メールの返信は来ませんでした。事故に遭ったのは11時9分と聞いていますので、私のメールを見ることはなかったようです。私たちの所に連絡があったのは、日付が変わった

夜中の2時30分でした。「息子さんが事故に遭いました。即死です。」と電話をいただき、何のことかよく分からないまま、あわてて病院に行きました。主人は「間違いありません。」と言いました。包帯でぐるぐる巻きにされ、どうして死んだのか分からないほどにニコリ笑っている長男の顔を見て、私は「あんたは大体なんばしよったと。」と言いました。

16歳という多感な年頃なので、誰かに迷惑を掛けないかと気になりました。赤信号で飛び出したのではないか、横断歩道でふざけていたのではないかということも気になって警察の人にすぐ聞いたのですが、警察の人も「まだお話しできないんですよ。」と言われました。いろいろと連絡して、いったんマンションに戻りました。マンションで荷物をまとめているとピンポンとチャムが鳴り、ドアを開けると、そこはテレビのワイドショーのようにテレビカメラとマイクが向けられ、「お母さん、息子さんは飲酒運転の車にはねられたんですけど。」と言われ、私はマスコミの人から飲酒運転による事故だと聞かされました。

わが家の事故が起こった7年前は、まだ被害者支援ということを警察がきちんとする時代ではなかったのです。今は、きちんと警察署の被害者支援室の人が、死亡事故の場合には来てくれます。ですから、死亡事故がマスコミに先に漏れるということはないようになってきています。さらに、遺族の方がマスコミ取材を受けたくないと言えば、警察を通じてきちんとコメントを出せる時代になりました。でもほんの7年前は、それすら違ったのです。マスコミの人たちがどんどん押し寄せて来て、わが家に全くプライベートはありませんでした。それでも私がマスコミのインタビューに応えたのは、「お母さん、新聞に書いても書いても、飲酒運転がなくなるんですよ。だからお母さん、飲酒運転をなくすために、インタビューに答えていただけませんか。」という真剣なまなざしがあったからで、それで「いいですよ。何でも答えますよ。でもきちんと伝えてくださいね。」ということでマスコミの人のインタビューに応えました。

それで、マスコミの人に聞きました。「うちの長男は、お友達の家に行っていたと思います。もう一人高校生はいませんでしたか。」と聞くと、「一緒にいた高校生も、朝方、病院で亡くなりましたよ。」と教えてもらい、その時初めて長男だけでなく、一緒にいた一番仲良しの友人も一緒に亡くなったことをマスコミの人から知りました。どうして飲酒運転はなくなるのだろうかと思いつつも、それでも一生懸命にマスコミの人に答えながら、「どんな子でしたか。」と聞かれば「明るくていい子でした。」と答えました。勉強は大嫌いでしたが、「俺たち、友達がたくさんおるじゃん。」が彼らの口癖

でした。その口癖通りに、通夜・葬儀には1,500人もの人に参りしていただき、驚きました。

事故の当日は、一緒に亡くなった息子の友達はサッカー少年で、高校が終わるといつものように小学生とサッカーをして、みんなが集まる駅に行きました。わが家の長男は、高校が終わって近くのスーパーのお肉屋さんでアルバイトをして、余った唐揚げをたくさん持って、みんなが集まる駅に行きました。駅では明日のマラソン大会についてひとしきり話した後、彼ら二人だけが自転車を取りに行く最中、事故に遭ったと聞いています。

私は亡くなった二人が一番伝えたいことがあったとしたら、私に伝えたいことがあったとしたら、それは「明日が当り前に来るということはないということ、そして今こうやって皆さんと共に生きているこの瞬間瞬間が本当に奇跡のようなすてきな時間であり、だからこそ、この奇跡の時間を一生懸命に生き抜いていかなければいけない」ということを、彼らから教えてもらったような気がします。私なりに毎日を一生懸命に生きていくこと、そのためにどう頑張ればいいのかと考えました。しかし、その時に思ったことは、やはりきちんと「ありがとう」と「ごめんなさい」を毎日その日のうちに言える人生を送りたいと思ったのです。

生きてると、いろいろなことがあります。今日お母さんにお弁当を作ってもらって美味しかったけど、弁当箱を置いておいたら明日も作ってくれるし、「ありがとう」なんて言わなくてもいいかなと思うかもしれません。でも今日あった「ありがとう」は今日のうちにきちんと伝えていく。それは「ごめんなさい」も同じだと思います。だからこそ、「ありがとう」と「ごめんなさい」を一生懸命に言い続けていくことが、私なりに一生懸命生きていくことにつながるのではないかと思います。そして、「いつてきます」と「いつてらっしゃい」は相手の顔をちゃんと見て、「無事に帰って来てね」の願いを込めてきちんと言うというの、あの日から心に決めて今もずっとしていることなのです。

小学生、中学生にも、高校生にも、「いつてきますと言ってね。」と言うのですけれども、先日高校生から「うちの父ちゃんも母ちゃんも早く行くけんね。俺が学校に行く時、おらんもん。」と言われました。たしかにそうだと思います。それでも、私は「でも、誰も居ない家でも、自分に対して大きな声で言うだけで、交通安全のスイッチが体に入るんだからね。」と言いました。そうなんです。無事にちゃんとたどり着くぞという交通安全のスイッチです。でも、折角入った交通安全のスイッチを、意外に若い人達は自分で切ったりもしています。スマホを見ながら道路を渡ったり、音楽を聴きながら、自転車に乗ったりしています。以前警察の方に聞いたことが

あるのですが、性犯罪に遭う方のほとんどがスマホを見ているときだそうです。ということは、スマホを見ているときは、他に意識が回らないということです。事故に遭いやすくなります。だからこそ、「いってきます」と大きな声で自分自身のスイッチを入れたときには、「ただいま」と家に戻るまでスイッチを切らないでいただきたいと思います。絶対にお互い悲しい思いはしない。事故も起こさない、事故に遭わない、そんなことが大事ではないかと私は思います。

わが家には犬が2匹いて、そのうちの1匹は柴犬です。もしかしたら、皆さんの中にはこの柴犬のこゆきさんを知っておられる方もいらっしゃるかもしれません。13歳になるおばあちゃん犬です。長男が小学4年生の時にこのこゆきさんがわが家にやってきて、亡くなった長男とともに仲が良かったので、どこに行くにも一緒でした。中学校、高校になって、どんなに彼の帰宅が遅くなっても、こゆきさんの散歩だけは連れて行っていました。ですから、こゆきさんも寛大のことが大好きでした。その長男が突然に居なくなったので、「こゆきさん、お仏壇の前で寝るんですよ。」といろんな機会に話していたら、あの有名な番組『天才！ 志村どうぶつ園』に出たのです。それで動物と話せるということで有名なハイジさんがわが家に来られました。

こゆきさんが仏壇の前に座っているのはどうしてかと聞くと、なんと母である私が笑顔になるからだと言っていました。私にとってはこゆきさんが一番の支援者だったのかもしれませんが、悲しくて毎日仏壇の前に座って泣いていたら、お腹が空いたとあってこゆきさんが私を呼びに来るのです。それで私が、「じゃあ、こゆきさん、買い物に行ってくるからここに座っていて。」と言うと、本当にそこに座って待っていたのです。私が「座っていてくれてありがとう。」と言うので、そこに座るとお母さんがほめてくれると思ったのでしょうか。どんなに寒くても悲しくても、こゆきさんに散歩に行きたいと言われれば、泣きながら一緒に散歩に行きました。そうやってこゆきさんと一緒に少しずつ季節の変わり目を肌で感じていきました。

このように、こゆきさんから助けられたことはたくさんあったのです。身近な人が話を聞いてくれたり、いつも通りの生活をさせてもらえるということは、なんだか一番の被害者支援だなと今でも思っています。このことから、こゆきさんが出てくるすてきなCMが完成しました。ご覧ください。

(約2分:『飲酒運転撲滅キャンペーン こゆきCM 3編』を上映)

山本：このCMはこゆきチャンネルというYouTubeでも流れています。警察署の窓口でも流れていますし、福岡では普通にテレビで流れていますが、私はそれには一銭もお金は払っていませんが、いろんな媒体に自由に使っていただいているCMになっています。もしお近くで使っていただける機会がありましたら、どうぞよろしくお願いします。

3本目の「21歳になりました」ということで映像に出てくれたのは、長男の本当の同級生です。今年で24歳になる年男、年女の方です。16歳の時、彼らは私に「大人なんてクソ食らえ。酒なんてなくなればいいし、車の免許なんか取るもんか。」と言ったんです。でも、彼らは彼らなりに人生を歩み、その中には福岡県警の警官になって、飲酒運転の撲滅に日夜頑張っている子もいます。ナレーションをしてくれた子は、去年FM福岡に就職して、ナレーターになりました。そうやって、それぞれの夢をしっかりとかなえているのです。

最初、制作会社から三番目のCMに「同級生の方の出演はどうですか。」と言われたとき、「そんなのは絶対に無理ですよ。」と思いました。だって、まだ子どもたちは結婚前ですし、顔が世間に出るということは大変な事なので「そんなことはさせられません。」と言ったのです。しかし、20歳過ぎた子どもたちのほうから「おばちゃん、僕たちはもう子どもじゃないし、今までおばちゃんたった一人で頑張っていたんだから、何か俺たちにもさせてよ。」と言ってきて、CMに臨んでくれたわけです。

こうやってたくさんの皆様に応援していただいておりますが、世の中から全然飲酒運転は減りません。全国ではまだまだ毎日のようにあちこちで飲酒運転があり、被害者があり、死亡者も出ている状況です。どうしたら飲酒運転がなくなるのだろうか、本気で考えました。障害者の話は障害者の人に聞くのが一番なのですが、飲酒運転をしている人から話を聞くことはなかなか難しいので、一生懸命に考えて、やはり体験ができればいいと気づきました。そこで、実は明日もある中学校(後楽館中学校)でやるのですが、いろんな場所で実際にしているのが、この「よっぱらいめがね」なのです。このメガネを掛けると、この場でよっぱらってしまうというすてきなアイテムなんですけれど、若い皆さんにここで掛けてもらいたいと思います。どなたかおられますか。

お名前をお願いします。

※ 会場から学生、一般の参加者を選ぶ

学生(國安)：岡山商科大学3年の法学部の國安と

言います。

山本：では、國安君に体験してもらいたいと思います。國安君はもう二十歳を越えていますか。では、もうお酒を飲めますね。ああ、飲んでますか。では、私の方を向いてメガネを掛けてください。そうして、今國安君が通ってきた道をそのまま通って来てもらいたいです。

※(ハンドルをもって運転しているマネをして歩くと、副学長の目の前でぶつかる)

山本：今、接触事故がありました。では國安君、メガネを外してください。メガネを掛けたときの見え方とか、どうしてぶつかったのか、話してもらえませんか。まず、机は見えていましたか。

学生(國安)：机は見えていたのですが、2つに見えて。

山本：ということは、この状態で車を運転すると、どうなりますか。

学生(國安)：事故りますね。

山本：素晴らしい。拍手をお願いします。

「そんなはずはないよね」と思われますよね。では、人生の大先輩の方、前の方をお願いします。地域からお見えですか。ありがとうございます。お酒はよく飲みますか。今日飲んできていないですよ。まだ飲んでない、良かったです。お酒を飲んでいないときに、酔っ払いの動きを見るというのが大事なポイントです。では、お名前を教えてください。

一般参加者(吉田)：吉田と言います。

山本：吉田様、ありがとうございます。私の方を向いてメガネを掛けていただいていたいいですか。では、今通ってきた道をバイクで通ってみてください。

※(オートバイの運転のマネをしていてふらつく)

一般参加者(吉田)：もう一回やらせて。(再度挑戦して、ぶつかる)

山本：吉田さん、ものすごく痛かったと思うのですが、大丈夫ですか。

一般参加者(吉田)：そんなはずはないないと思っただけですが……。なんでぶつかるんですか。

山本：そうなんです。でも、今ぶつかりましたよね。

この状態でバイクを運転すると、どうなると思いますか。

一般参加者(吉田)：これ、命がないですよ。

山本：そう、命がないです、危ないです。ありがとうございました。

一般参加者(吉田)：自信があったんですけど。

山本：良かったです。そこでクリアされたら、私の話が続きにくいところでした。

では、吉田さんに拍手をお願いします。

時間があれば皆さんにさせていただきたいのですが、最後にもし時間があれば、体験してみてください。

実は、飲酒運転で捕まった方はみな同じようなことを言われるのですが、「自分だけは大丈夫と思っていた。」「真っすぐ行っていると思った。」と必ず言われるのです。私は看護師をしています。予防接種の注射などをするとき、アルコール薬で腕を拭きますが、あのアルコール薬とお酒は同じエタノールです。ですから、お酒というのはエタノールという薬物なんです。口から喉に入り、小腸で吸収され、肝臓で分解されて、エタノールは水に溶けるので血液の中を巡って、最後に脳に行きます。ですから、酔っ払った状況というのは、脳に麻酔が掛かった状態なので、真っすぐ行こうと思っても曲がってしまうのです。絶対に真っすぐには行けない。それは、脳に麻酔が掛かっているためなんです。

それでは、今使ったメガネはどういうことなのかというと、メガネ自体を曲げて作っているの、視覚から一瞬脳を曲げたように作っているの、真っすぐ行けないようになっているのです。酒は麻酔が掛かっていく、その麻酔は病院で皆さんがかかる麻酔とほとんど同じです。というのも、私は看護師をしていましたから、夜勤の時に、よく酔っ払いが頭から血を流してやって来ていました。でも、ニコニコしているのです。転んでいても痛くないようで「血が出ていますよ。」と言っても「大丈夫です。」という感じでした。そんなとき、医者は麻酔をせずに針と糸で縫うのです。それでも、麻酔が掛かっているの、まったく痛くないんです。ということは裏を返すと、脳の中にお酒の麻酔に掛かると、痛くないしニコニコできるけれども、正しい判断ができない状況であるということなんです。お酒を飲む前は、「飲酒運転は悪いことだ。」とみんな知っているんですが、お酒を飲

んで脳に麻酔を掛けてしまったら、正しい判断ができず「近くだから、ちょっとだけ飲んでもいいかな。」といって飲酒運転をしてしまって、事故にあう人がいまだに減っていないのです。

ではどうすればいいのかというと、お酒を飲まない人にも役割があるのです。飲酒運転は本来ゼロなのが当たり前なのです。その飲酒運転ゼロに向かって、学生の皆さん、地域の皆さん、行政の皆さん、警察の皆さん、マスコミの皆さん、教育や飲食店の皆さんから、「飲酒運転はしてはいけないよね。飲酒運転はダメ。」という言葉がいろんな所で上がれば上がるほど、絶対に効果があるんです。

福岡県は本当に飲酒運転が多くて、私は今までにいろいろところで話しているんですけども、最初のころはよく文句を言われていました。信じられないかもしれませんが、こういう講演会でさえも、「飲酒運転なんか、なくなるわけがないさ。」と後ろのほうからヤジが飛ぶのです。そして、なかには「おまえんちの息子が夜に歩いとったから、ひかれたんだ。」とわざわざ電話が掛かってきたこともありました。7年前はそんな具合でした。でも、「わが家に起こった被害者の話は、皆さんにも起こるかもしれないことなんです。だって、福岡県で飲酒運転で検挙される車は、毎年1,400~1,500件ぐらいあるんです。それは氷山の一角で、本当はそれにゼロが3つくらい付くのだとしたら、普通に夜道を歩いていて、たくさん車が飲酒運転しているとしたら、誰がひかれても誰がひいてもおかしくない世の中でしょう。だから、飲酒運転をゼロにしていけないと、皆さんの家族や友達が危ないんですよ。」と一生懸命に話をしていったら、驚くことに、なんと去年1年間で福岡県での飲酒運転での死亡者がゼロになったのです。福岡県では、1965年から計測を始めて以来、ずっとゼロになったことはなかったのです。52年ぶりにゼロになったのです。つまり、言い続けていくこと、いろんな声を知ること、本当に減っていくのだなと思いました。

それでは、わが家の事故の状況について、少しだけお話ししたいと思います。粕屋町の酒殿(さかど)という結構広い道路でした。ちゃんと歩道もあります。その歩道のはしっこに、彼らの靴の裏の跡が付いていました。間違いなく歩道を歩いていたと言われました。加害者の方は、よく酒を飲んで車を運転する方だったようです。再犯者でした。以前にも飲酒運転で捕まって、罰金30万円以上払ったことがある人だと聞きました。その日は会社の飲み会で、会社の社長さんは飲み代を払って「気を付けて帰れよ。」と言って、先に店を出たそうです。加害者の方は、今日は少し飲み過ぎたなと思ったそうです。店を出るときから眠たかったそうです

が、次の日の朝は早くから車を使わないといけなかったので、頑張ってハンドルを握ったといえます。次の交差点であまりにも眠いので寝てしまい、対向車のライトで気が付きました。「これはいかん、早よう運転して帰らないといかん。」と思い、さらに頑張ってハンドルを握ったその200メートル先に、わが家の長男と友達が歩いていました。加害者の方はまったくの居眠り状態で、75キロ以上の速度で真後ろから2人にぶつかったので、2人ともほとんど即死の状態だったと聞いています。

加害者の方が最初に電話したのは、会社の社長さんでした。「お前、救急車を呼んだのか。」と社長さんから言われて、慌てて救急車を呼びました。会社の社長さんが次に電話したのは、飲み屋さんでした。何を話したのかは分かりませんが、刑事裁判の時に、皆さんがほとんど同じようなことを私に言いました。それは、会社の社長さんも一緒に飲んでた会社の皆さんも、飲食店の方も、みんな「まさか、加害者の人が車を運転するなんて知りませんでした。」ということでした。私はそんな馬鹿な話があるものかと思いました。

そして裁判の判決の日に、当時高校二年生だった息子の同級生たちが、学校を早引きして法廷に現れたのです。先ほどのCMに出ていた彼らです。「何しに来たの。」と聞くと、「ちょっと一言加害者の人に文句を言いに来たんだ。」と言いました。「おばちゃん、加害者の人に直接会えるのは、今日が最初で最後なんやろう。言いたいことが山ほどある。言えるチャンスがあるんだったら、法廷からでも俺たちは言いたいんだもん。」と一生懸命に言うので、「そうだね。」と法廷の中に入りました。裁判長から懲役14年と読み上げられて、私は泣いてしまいました。私が泣いてしまったので、文句を言いに来た子どもたちもみんな泣いてしまいました。文句を言うどころではなかったのです。

「おばちゃんが泣いてしまってごめんね。文句言いたかったけど、言えなかったね。」と言うと、子どもたちみんなが言ったことは「文句を言おうと思ってやってきたけども、加害者の方の顔を見たら、あまりにも普通の人だったのでびっくりした。」というのです。そうなんです。飲酒運転という犯罪は重大な犯罪です。でも、犯す人というのは、たまたまお酒を飲んで、たまたまハンドルを握ったがために起こしてしまう犯罪なのです。凶悪犯の人がするのではないのです。あまりにも普通の人



だったという言葉に、私もそうだと思います。そして、もう一人の男の子が私に言ったのは、「おばちゃん、被害者を出さないのは当たり前。でも、本当に大事なものは、加害者をつくらない社会にしないとイケないことだ。」と言いました。

たくさんの皆さんからみれば、被害者というのは亡くなってしまった彼らと遺族である家族だと思われるかもしれませんが、実はそうではありません。彼らのことを思って今でも泣き悲しむたくさんの人たちも、一緒に被害者なんです。たった一人の加害者から、何十人、何百人もの被害者をつくるんだったら、やはり加害者をつくらない、そんな社会にしなければいけないなと思いました。

皆様のお手元に、「TOMOs(ともす)」というフリーペーパーがあると思いますが、この「TOMOs」という名前にはある思いを込めてあります。それは「共にすてきな生き方を」という名前をかけて、「TOMOs」としました。さらには、「TOMOs」は、福岡県から全国に5万部発信しています。岡山県警にもたくさん送らせていただいている、県警から大学生の手に渡り、皆さんに広げていただいています。1月25日には最新号が出ます。ぜひ読んでいただければ有り難いです。そして、若い皆さんと一緒に飲酒運転の撲滅ができればいいなと思っています。

福岡で飲酒運転に関する話が多いのは、やはり2006年の「海の中道大橋飲酒運転事故」が大きなきっかけでした。今から12年前、海の中道大橋というところを、一家5人が乗った車が普通に道路を走っていただけなんです。でも、後ろから一家5人の乗った車に泥酔状態の車がぶつかり、車ごと海に落ちてしまった、そんな事故がありました。その車の中には幼い子どもたちが3人も乗っていて、その子どもたちは3人も亡くなってしまったのです。あの事故から、もう12年がたとうとしています。福岡県では、その事故のあった8月25日を「飲酒運転撲滅の日」として条例で定めて、たくさんの追悼式や飲酒運転の撲滅大会が行われています。

今から見ていただく映像は、2014年の8月25日に、ゼロを描いた大濠公園に飲酒運転撲滅のためにたくさんの人を集めたイベントの様子です。大濠公園は一周2.4キロもあり、そこに福岡県で1万人の酒運転撲滅をする人を集めようというむちゃなイベントでした。でも実際にたくさんの皆さんに来ていただけたわけですが、それを皆さんにも見ていただこうと思います。「10,000人のチームゼロ」です。

(約3分:「10,000人のチームゼロ」のビデオを上映)

山本：この日はとても暑かったのですが、大人から子ども、おじいちゃんおばあちゃん、企業の人などたくさんの皆さんが大濠公園に集まりました。そして皆さんが口々に言ったのが、「飲酒運転は本当になくさないといけんよね。」ということと、「何かしたかったんよ。」という言葉でした。私はその何かしたかったということがすごくうれしくて、たくさんに味方が、そして共に声を上げてくれる人がこんなにいることがどれほど心強いことだったのかわかりません。今日はこのように遺族の声を共に聞いていただき、共に涙していただき、そして少しだけ自分のことのように考えていただく時間をつくっていただいたことに、大変に感謝しています。

また、私の方から発信している「Stop!! 飲酒運転」のマークはハートです。最初にデザインが上がって来たときは、飲酒運転という文字に大きなバツ印がありました。でも、その×を見た時に、講演の冒頭に申し上げましたように、私は障害者である主人からたくさんのごことを学んでいました。そこには、人には怒りや憎しみは通用しないということ、でも、思いやりを持って活動していけば、その輪は必ず広がっていくことを学んでいたのです。ハートにしたいと言って作ってもらったのがこのハートのマークなんです。大きいハートが長男と一緒に亡くなった友達で、中のハートがわが家の長男、三つ目のハートが2人の思いと飲酒運転撲滅を願うすべての皆さんの思いを込めて、この3つのハートが重なっています。命は1人につしかない大切な宝物です。だからこそ、自分の命は本当に大事です。もっと大切なのは人の命。自分の命も人の命も大切にされる、そんな社会になると素敵だなと思っています。

最後に、私は行った先々の皆さんから元気をいただくようにしているのです。ですので、今日は岡山商科大学の皆さんから元気をいただいて帰ろうと思っています。私が今から声を掛けますので、「せーの」の後に、「飲酒運転ゼロ」と皆さん一緒に叫んでいただきたいのです。いいですか。では、少し肩をほぐしてください。では、いいですか。後ろの方もお願いします。

では、今夜の飲酒運転がゼロに。飲酒運転だけでなく、高齢者の事故や子どもたちの事故、そして皆さん方の通勤・通学途中の事故がゼロになるように、共に声を上げていきたいと思っています。それでは、いきます。

「岡山県の皆さんで目指すのは、(せーの)飲酒運転ゼロ!」

ありがとうございました。私もしっかり頑張っていきたいと思っています。今日は本当にありがとうございました。

岡山商科大学 経済学部 <金融コース> 開設記念公開講演会

『金融リテラシーの 現状と課題 ～NISAの進展を含めて～』



前日本証券業協会会長
野村アセットマネジメント(株)顧問
稲野 和利氏

金融リテラシー、つまり、金融に関する知識や情報を正しく理解し、自ら主体的に判断できる能力。この金融リテラシーの現状と課題というテーマについて考察を加えていきたいと思えます。

現代の日本における投資に関するイメージ、とりわけ、株式については、「株に手を出す」、「株に手を染める」といった言葉が根強く使われており、「一獲千金を狙って一挙にお金を投じて、その結果悲惨な結末を迎える」という偏ったイメージを持たれています。これは、長い時間をかけて経済成長や企業成長の過日を経ている「投資」という行為と、ごく超短期的な価格変動を利用して市場において利益を上げようとする「投機」という行為とを全く意識していないことから生じているように思えます。一方で、現在の日本は、「投資」による資産形成の必要性がかつて以上に高まっている状況にあると言えます。日本は世界最速で少子高齢化が進み、賦課方式の社会保障システムに一部限りが見えていることに加えて、長引く超低金利環境が家計の金融資産形成に深刻な影響を与え、預金だけの資産増殖を図ることは極めて非現実的です。

つまり、現在の日本は、公助や共助を前提とした国の制度だけに頼るのではなく、「自助」の必要性がより高まる状況にあるのです。この「自助」とは、自らの努力で金融資産の蓄積・増殖の維持を図る、つまり資産運用を行なっていくことであり、老後を有意義に過ごすためにも、経済的基盤を「自助」によって万全にしていく必要があるでしょう。にもかかわらず、依然として日本の預貯金は他国と比較しても圧倒的に高く、株式等の市場性金融商品を占める割合は相対的に低い。すなわち、低リスク・低リターン資産に偏っているのです。さらに、個人金融資産の総額が1800兆円あると言われる日本ですが、金融資産ゼロ世帯が圧倒的に増加しています(1000万円以上の収入世帯においても1割以上が金融資産ゼロ)。

現実として、これらの状況を考えるならば、「すべて

の日本国民が、一定年齢(第一義的には60歳、第二義的には18歳あるいは20歳)に達したとき、一定の金融資産を有している」ことを明確な政策目標とすべき時代に入ったのではないかと私は考えます。明確な政策目標を掲げ、個々人の資産形成サポートをする支援措置を、制度という形で、明確化していくことが必要でありましょう。事実、現実に明確化されつつあります。具体的には、「NISA(少額投資非課税制度)」、「ジュニアNISA」、「つみたてNISA」、「個人型確定拠出年金(iDeCo)」などが挙げられます。

2014年から始まった「NISA(少額投資非課税制度)」は、20歳以上の国内居住者を対象にしたもので、制度開始3年半で対象者の10分の1の人が口座を開設しており、かなり浸透したといえます。これに対し、2016年から始まった「ジュニアNISA」は、19歳以下の未成年者を対象にしたもので、現在までの段階ではあまり捗々しくない。将来のための長期投資、高等教育資金の円滑な形成、祖父母世帯から孫への円滑な資金移転を可能にする制度ではあるが、制度の複雑さ、使い勝手の悪さなど今後の課題が指摘されています。2018年からは、これらのNISAに加えて、「つみたてNISA」がスタートしますが、NISAとの違いは、投資対象商品がかなり絞り込まれている点にあります。

さらに、拠出(積立)額が所得控除になる個人型確定拠出年金「iDeCo(イデコ)」も、大幅に増加しており、働き方が多様化している現在の状況に鑑み、転職しても資産の移行がスムーズにできるように、様々な

PROFILE

前日本証券業協会会長

野村アセットマネジメント(株)顧問

稲野 和利氏

1953年生まれ、神奈川県出身。1976年東京大学法学部卒業、野村證券入社、1997年取締役、2000年専務取締役、2002年野村アセットマネジメント取締役社長兼野村ホールディングス取締役、2003年野村ホールディングス取締役副社長兼Co-CEO(兼任)、2005年取締役執行役員副社長兼Co-CEO、2008年野村證券執行役員副会長、2009年野村アセットマネジメント取締役会長代表執行役、2011年同取締役会議長代表執行役を経て2013年日本証券業協会会長就任。2009年から2013年経済同友会副代表幹事、投資信託協会会長、日本証券アナリスト協会会長を務める。2017年7月より現職。

手当てが行われ見直しがなされています。女性の活躍促進という観点からもこの「iDeCO(イデコ)」は意味があり、正規雇用ののちに専業主婦になった女性もその後の再就職以降も含めた継続的な金融資産の運用が可能になるわけです。

以上、投資による資産運用の必要性が高まり、その問題意識のもとに、各種の充実が図られるなかでの課題とはなにか。それは、「金融リテラシーの不足」と人間のやっかいな心、すなわち「損失回避傾向」とどう向き合うかだと考えます。

まず、「金融リテラシー」は、国民経済において大きな問題です。消極的な文脈で考えれば、金融リテラシーの不足は、投資詐欺などの被害に直結するということになります。一方、積極的文脈では国民の長期にわたる資産形成に大きな役割を果たすという風にあります。

以上の観点から3つのトピックスを挙げます。まず元本保証についてですが、その保証主体は何者か、財務的安定性はいかほどかという本質を理解することが重要であります。また元本保証の意味を正しく理解するという事は、ノーリスク・ハイリターン金融商品は存在しないという事を理解することでもあります。次に複利効果でありますけれども、投資の成果を再投資することで、長期にリターンを享受することが可能になるということです。最後に時間を味方につけるということですが、これは、個人の投資家にとって重要な基本的態度であります。機関投資家は個人以上に情報や分析力を有している一方、1年ごとの決算という制約を抱えています。情報や分析力の点では劣る個人投資家にとって、制約がないという利点を生かして、長期投資に結びつけていくことが重要であります。

さて金融リテラシーの不足に関しては、国も含めて各所の問題意識が高まっている状況にあります(『金融経済教育研究会報告書』(2013):『PISA2012』(OECD生徒の学習到達度調査)など)。金融リテラシー向上への動きについて、金融経済教育推進会議が公表した『金融リテラシーマップ』の要約を示します。これは人生の各段階において、個人が身に付けるべき金融リテラシーを整理したものです。さて、資産形成商品についてですが、金融リテラシーマップでは、例えば高齢者の段階において、「自ら理解できない商品への投資はしない」、「ノーリスク・ハイリターンをうたう金融商品に疑いを持つことができる」といった内容も含まれています。この内容はだれもが守るべき



リシパルといえます。

今後の課題として、金融教育の充実が挙げられます。学校教育においても金融の重要性が言及されるなど、少しずつですが着実な変化が起こりつつあります。日本証券業協会でも金融リテラシー普及活動を行っており、学校向け事業はもちろん、社会人向けにも様々な活動を行っています。ぜひ日本証券業協会のホームページにアクセスしていただけたらと思います。

次に人間の心の動きである損失回避傾向というものに触れます。様々な実験により、損失は利益より強く感じられるということがわかっております。投資の途中経過において損している状態というのはつきものであり、この状態は強い不快感や不安感を呼びます。

不安感に立ち向かいつつ、長期投資を実現するという観点からも、主として投資初心者の中に、ドル・コスト平均法のような手法が広がっていることは大変望ましいといえます。

各種制度の今後の展望についてですが、現在NISAの口座開設、非課税の期間は限定的であります。今後、法律を制定して恒久化を実施するということが大きなテーマであります。確定拠出年金については、私的年金の利用を皆が行う環境を整える必要があるでしょう。

NISAをきっかけに、教育・住宅・老後などのライフイベントへの出費に関して、個人が様々な金融商品を選択しながら、自助努力によって資産形成を行っていくことが可能になります。このような「投資の習慣化」の広がりが「NISAが拓く資産形成の新時代」として期待される姿だと我々は夢見ております。もちろんこうした変化は劇的な変化でなく、長い時間をかけてもたらされる変化であります。そのような感覚を大切にしながら、金融資本市場の発展と投資家の方々がより一層信頼できる投資環境の整備充実のために今後とも微力ながら力を注いで参りたいと思います。

ご清聴 ありがとうございます。



「学会学術公開講演会」 2017.7.21

経営学部経営学科 教授 長田 貴仁



2017年7月21日に『週刊東洋経済』や『会社四季報』でおなじみの東洋経済新報社から、代表取締役社長の山縣裕一郎氏をお招きし、講演会を開催しました。学生教職員約200名が参加する中、次のようなお話しを頂きました。

「グーテンベルクが印刷技術を築いてから570年目。今、ITがこの世界を崩しつつあります。アマゾンの「Kindle」とアップルの「i-Phone」の出現により、出版業界を取り巻く環境は激変しました。雑誌は19年連続で縮小。本を読まない人が3分の1に増えました。この結果、全国で書店がない無書店自治体は2割にも上ります。出版業界と同等、いや、それ以上に打撃を受けているのが新聞です。総発行部数のピークは1997年の5,376万

部。19年で約1,000万部減っています。

ネットメディア、SNSが台頭した結果、既存メディアに対して疑問を抱き、ネットの森をさまよう人が増えてきました。その中には裏付けのない誤った情報も少なくありません。どうぞ、信頼性あるメディアの森を散策して下さい。自分の興味のあるテーマを持続的に追いかけてみては。たとえば、本を読むとき、目次を見て読みたい章に○をつける。そこから読み始め、余った時間で残りの章も読んでみるという方法をお勧めします。」

第4回「投資家と学生のための会社説明会」 2017.10.21

社会総合研究所 客員教授 近藤 一仁

岡山商科大学では、昨年10月21日(土)の大学祭にて第4回「投資家と学生のための会社説明会」と題した公開IR(インバスター・リレーションズ)講演会を開催しました。

本学は、2008年以来、経営学部商学科にファイナンシャル・プランニングコース(FPコース)を立ち上げ、実務に強い金融スペシャリストを育成するべく、金融・経済教育に関連する異彩な取り組みを行っています。

日本は欧米に比べ、投資家の中に占める個人投資家の存在感が小さく、1,845兆円を超える個人金融資産の構成も、株式や投資信託への投資が少なく(16.3%)、金融資産の過半数(51.1%)が銀行等への預貯金に集中しています。投資にはリスクも伴いますが、許容できる範囲で家計に眠っているお金を株式に投資することで、企業の成長を支援することやベンチャー企業を育成することが可能となり、その結果、経済活動が活性化され、私たちの暮らしを豊かにする大きなリターンを得ることができます。そのためにも、上場企業の現状と未来を知るためのIR活動は、投資家にとって重要なイベントです。

昨年、株式投資についての正しい知識と理解を深めるため、東京証券取引所に上場している企業の中から、神戸のカルナビオサイエンス(株)代表取締役社長で薬学博士の吉野公一郎氏、地元の(株)カワニシホールディングス代表取締役社長で医学博士の前島洋平氏(元岡山大学教授)、大阪のアンジェス(株)の創業者で医学博士の森下竜一氏(岡山県総社市のご出身、大阪大学大学院教授)等、バイオ・ヘルスケア産業を代表する経営者を招き、ご講演いただきました。会の冒頭では、長年、証券業界に関わってきた本学 社会総合研究所客員教授の近藤一仁(野村総合研究所、いちよし経済研究所、証券印刷大手の宝印刷等でアナリストに従事)が「ヘルスケアのフロンティアpart2」と題した基調講演も行いました。当日は、学外からも投資家や学生等約100名余の聴衆が熱心に聴講しました。深謝いたします!!



「学会学術公開講演会」 2017.12.8

経営学部経営学科 准教授 陳 恵貞



岡山商科大学学術講演会が2017年12月8日(金)に開催され、「分断の時代—日本が直面する厳しい現実—」というテーマで荻野博司氏(元「朝日新聞」論説副主幹、東洋学園大学教授)からご講演をいただき、本学の教職員、学生、約180人が来場し、受講しました。ご講演は、少し学生向きにお話しを頂き、内容はトランプ大統領の出現をはじめ、英国のEU離脱、グローバルな課題の広がり、難民問題の重要性、エルサレムの問題まで、世界各地で話題になっている出来事について述べられました。これらの内容は心に響く講演でした。その後、学生からの質疑応答を受け、講演会が終了しました。

受託研究

おokayama大学生中山間地域等研究・連携促進事業

「地域の課題解決と観光の融合の実現に向けて」

調査分析担当者 経営学部商学科 教授 三好 宏



1. はじめに

本学は、平成27年度に引き続き岡山県の「おokayama大学生中山間地域等研究・連携促進事業」の補助金を受け、岡山県笠岡市に位置するいわゆる笠岡諸島の観光プラン作成に向けた調査研究を、経営学部三好ゼミの学生7名が継続実施した。

2. 調査研究の概要

(1) 調査目的

本調査は、笠岡諸島における産業基盤拡充策の一つとしての観光事業の可能性について調査研究することであり、今回は前年度の調査で出された「島外の人が遊歩道整備等のお手伝いをしながら観光も楽しむという『地域の課題解決と観光の融合』」のコンセプトを、より実現に向けたプランに練り上げることを目的とした。

(2) 調査内容

調査は、前回同様真鍋島を中心とした笠岡諸島の島々や、瀬戸内海の島周遊の旅を実体験しながら、宿泊も含む計9回の現地調査を実施した。そして、その結果を2017年3月24日真鍋島ふるさとふれあいセンターにおいて、学生6名が島民関係者7名を前にその内容を報告した。

3. 調査結果の概要

(1) 地域の課題解決と観光の融合に向けての課題

学生たちはこれまでにお手伝いした真鍋島の遊歩道整備の体験や現地調査によって、課題を整理した。そこで浮かび上がったことは、遊歩道整備については、日程、費用、作業に対する意欲、受け入れ態勢の問題であった。観光については、島歩きの地図が不足、看板等の未整備・補修の必要、島全体にお金落ちる仕組みがない、という課題が判明した。さらに両者を融合させる課題としては、観光者に

どのようにして遊歩道整備の作業に参加してもらえるのかの、諸島の観光の魅力創造と伝達の仕組みが必要であるという結論に至った。

(2) 課題解決に向けたヒント

この課題を解決すべく島観光の魅力や、諸島の六島、高島、白石島、大飛島、北木島を踏査他することで探ってみた。それにより学生たちは、笠岡諸島の観光の可能性を次のように整理した。

- ①それぞれの島が近くにありながらも、一つ一つの島が個性的で趣が異なる。
- ②個人、カップル、グループ等タイプに応じた宿泊場所がある。
- ③船をチャーターすれば島周遊の旅が可能である。

例えば、①について言えば、はるか瀬戸内海を見渡せる場所(六島灯台、大飛島恋人岬等)もあれば、簡単に島一周を歩いて回れたり(大飛島鉢巻道路)、本土の風景や異なる形の島がすぐそこに見えたりして(高島)、変化に富んでいる。

②では、絶景の小さなゲストハウス(大飛島)、グループ利用に最適な民宿・旅館、団体収容できる公共の宿泊研修所と、やはりこちらも単純な島の民宿だけというのではなく、それぞれ個性的な宿泊施設がそろっている。

③では、真鍋島は五里五里と言って本州と四国のちょうど真ん中に位置している。さらに笠岡諸島は大きく言えば瀬戸内海の真ん中である。四国に行くにも、東に行くにも、西に行くにも船があれば便利が良い。今回の調査では真鍋島からしまなみ海道の生口島まで、途中宇治島、尾道、鞆の浦に寄りながらその魅力を体感した。

4. おわりに ～課題解決に向けた一試案～

以上のことを総合して、学生たちはこれを段階的に進めるための一つの案を考え出した。それは、島の人と島外の人と一緒にやって行う「島歩きマップの作成ワークショップ」である。その理由と目的は、①手間いらずで島外の人でも参加しやすい、②歩くことで島で整備が必要な箇所が把握できる、③島の人のお薦めスポットを紹介し、マップの価値を高める、④その場所の昔話等も書き込み、島の記録を残せる、⑤できたマップを訪れた人を買ってもらう、である。

果たしてこれが実現可能なものかどうか、学生たちは試験的に試みた。真鍋島において白地図とレンズ付きフィルム写真を持って、気になる、面白い瞬間を写真にとり、そのコメントを地図に書き込んでいくという実験である。正直なところ、これをワークショップにまで高めるにはまだまだ課題もあるが、今後も引き続いて実験を繰り返し、このワークショップを実現させたいと思っている。



フィールドスタディの取り組み

本学は、「地学地就」、つまり地域に関する知識を有する人材育成及び学生の現場力、地域力を高めることなど、実践教育活動を必要欠くべからざるものと考えています。こうした考えにもとづき地域実践活動を学生参画型で行うことにより、本学の学生の実践教育、教員の教育・研究活動をより多くの方に知っていただき、地域のみならずとのさらなる連携を実現していきたいと思ひます。

17 フィールドスタディ(観光サービス実習)

2017.9.25~9.29 キャピタルホテル(韓国、ソウル市)

観光サービス実習 受講生10名

- Front Office/Bell Desk、F&B/バックサイト管理、バンケットルーム準備などホテル業務の経験や知識の修得
- 韓国大学生との交流会

経営学部商学科 ソンジョン 講師



13 テーマパークデザイン論

2017.8.28~31 徳島県名西郡神山町

商学科:11名

- 神山町における地域づくりの現状を把握するため、移住者や地元住民に対する聞き取り調査を実施した。
- 地域づくりを実践している組織の活動に参加し、地元住民や移住者との交流を実施した。

経営学部商学科 大石 貴之 講師



14 キッズビジネスパーク

2017.9.2 コンベックス岡山

経済学科:1名 経営学科:21名 商学科:12名

- 学生が店長となって、企業の方や高校生と共に一つの職業ブースを運営し、子どもたちの就業体験のサポートを行うことにより、子どもを通して働くことや社会の仕組みについて学習する。

経営学部商学科
海宝 賢一郎 准教授



01 ニンニク畑開墾作業

2017.4.16, 4.30, 6.25, 7.9, 7.16 笠岡市真鍋島

商学科:2, 3年生延べ18名

- 島の耕作放棄地を特産品化を進めているにんじく畑に開墾する作業を手伝う。
- トラクターでは雑草がすぐ生えてくるので、まずは鎌で草を刈る作業の繰り返し。
- しかし、海が見下ろせる畑で、お昼にここで食べるおにぎりはまた格別であった。

経営学部商学科 三好 宏 教授



02 博物館実地実習

2017.4~8 林原美術館 商学科:1名

2017.8.21~28 大原美術館 商学科:1名

2017.9.5~9 岡山シテミュージアム 経済学科:1名

- 各受け入れ博物館の研修プログラムに沿って、展示資料の片づけ・梱包、開梱・展示作業の手伝い、教育活動イベントの進行等の研修を受けた。
- 各学生は研修簿に記述し、それを基に後日授業の中で発表・検討会を実施。

経営学部商学科 柳瀬 昭彦 特任教授

04 日ようび子ども大学・キッズマネー教室開催

2017.6.4 大学コンソーシアム岡山(岡山県生涯学習センター)

商学科FPコース 1~3年生 18名

- 大学コンソーシアム岡山の日ようび子ども大学にて「キッズマネー教室」を開催。
- 2年生が中心となり、参加小学生28名に対して小学生向け金融リテラシー教育を行った。

経営学部商学科
海宝 賢一郎 准教授



05 ヒナセ♡ノミーノスタッフ協力

2017.6.4, 10.8 備前市日生地区

6.4は商学科:2名(2年, 4年)

10.8は経営学科:1名(1年), 商学科:1名(3年)

- カキオコまちづくりの会の依頼により、応援するもの。
- 日生地区を食べ、飲み歩くイベントの受付対応や盛り上げに協力した。

経営学部商学科 三好 宏 教授



18 里庄まこもたけ収穫体験事業

2017.10.2~10.31 里庄町

経営学科:2名(1年1名, 4年1名)

商学科:16名(2年2名, 3年9名, 4年5名)

- まこもたけの特産品化を進める里庄町から収穫がなされる1か月間の支援要請を受け、収穫、出荷作業、スーパーでの試供販売、産業文化祭でのPR等に協力した。
- まこもたけの栽培、収穫、出荷はほぼ全て手作業で行わなければならない、これが生産農家拡大のネックになっている。
- 特に大変な収穫作業を手伝ってくれる学生がいれば、試みに生産に取り組んでみようと思う生産者を増やすのが目的。
- 学生にとっては、農産物のブランド化に向けてどのような配慮が必要かが実験できた。

経営学部商学科 三好 宏 教授



03 真鍋島小・中学校・公民館合同運動会への参加

2017.5.20 笠岡市真鍋島

全学部1~4年29名(経営学科:5名, 商学科:15名, 吹奏楽部:9名)

- 昨年に引き続き小中学生が少なくなった島の運動会を盛り上げるため参加。
- 今年は吹奏楽部にも応援を頼み、音付や演奏をしてもらった。
- 競技はスプーンレース等小中学生と一緒に、競技員の準備片づけ等も補助した。
- 終了後は島の人たちとふれあいパークでの花壇整備にも協力した。

経営学部商学科 三好 宏 教授



06 津山市地域・大学連携事業、婚活支援のフィールド調査

2017.6.10 2017.7.2 津山市(城西地区)
経済学科:3名
●津山市の少子化対策をヒアリング調査。
●婚活支援イベントに、ボランティアとして参加。



経済学部経済学科
國光 類 講師

07 博物館資料(古文書・典籍)の取り扱い

2017.6.23 岡山市北区南方・岡山県立記録資料館
経済学科:1名 商学科:2名
●館内見学、古文書・典籍等の取り扱いについて担当の専門職員から講習、研修を受け、実際に学生が資料整理作業等を体験。

経営学部商学科 柳瀬 昭彦 特任教授

08 湯原温泉のイベント協力 観光客に対するアンケート調査

2017.6.26, 2017.7.23, 2017.8.9~11 湯原温泉(岡山県真庭市)
経済学科:2名 経営学科:9名 商学科:8名(延べ人数)
●湯原温泉におけるイベント(露天風呂の日、トリアスロン、はんざき祭り)に関する運営補助を行った。
●露天風呂の日、はんざき祭りにおいては来場者に対するアンケート調査を実施した。



経営学部商学科 大石 貴之 講師

09 エコナイトでの発表、番茶販売

2017.7.8 岡山市奉還町商店街
商学科:4年1名, 3年5名
●恒例となっているエコナイトに参加。
●連携支援活動を行っている美作市の海田地区の番茶や真鍋島のんにく醤油等を販売した。
●茶畑維持活動も兼ねている美作市でのフィールドスタディについて発表を行った。



経営学部商学科 三好 宏 教授

10 瓦工事協同組合ワークショップ

2017.7.15 岡山商科大学
商学科:3年2名, 2年3名
●一昨年に続き瓦工事組合さんから研修目的で依頼があるもの。
●今年も岡山県だけでなく、福山市や香川県の組合からも参加があり、次年度は西日本の組合大会でも実施したいとの依頼があった。



経営学部商学科 三好 宏 教授
大石 貴之 講師
経営学部経営学科 大東 正虎 准教授

11 海田天日干し番茶プロジェクトへの協力

2017.8.1~8.6 美作市海田地区
法学科:1名(1年)、経営学科:1名(3年)、
商学科:7名(4年・1名、3年・5名、2年・1名)
●伝統的番茶製法と茶畑景観の保存に取り組む地元団体の番茶製作へ協力。
●今年も昨年度の活動の成果等を地元の方と意見交換したり、(有)海田園黒炭製茶の工場見学も実施。
●袋詰めした番茶を学祭、近隣のイベント等での販売も行う。



経営学部商学科 三好 宏 教授

12 観光地計画論

2017.9.4~7, 2017.9.7~10 湯原温泉、森山高原(岡山県真庭市)
経済学科:2名 商学科:10名
●旅館の経営者を対象に、経営状況や客層の変化などについて聞き取り調査を実施した。
●森山高原の新しいお土産を考えたというテーマで、道の駅スタッフ等と学生によるワークショップを実施した。



経営学部商学科 大石 貴之 講師

15 FPコース・会社見学会

2017.9.14 日本銀行岡山支店 SMBC日興証券岡山支店
商学科FPコース2年生:6名
●日本銀行岡山支店において岡山県の経済動向や金融政策等の最新情報についてのヒアリング調査を実施した。
●SMBC日興証券岡山支店において、証券会社の業務内容等についてのレクチャー、営業フロア見学等を実施した。

経営学部商学科 鳴滝 善計 教授
海宝 賢一郎 准教授

16 博物館見学実習

2017.9.22 津山市/つやま自然のふし館、奈義町現代美術館
2017.9.29 香川県直島町/地中美術館、家プロジェクト
2017.10.6 広島県福山市/広島県立歴史博物館、ふくやま美術館
2017.10.14 兵庫県姫路市/姫路市立水族館、姫路市立動物園
経済学科:1名 商学科:3名
●いずれも単なる見学ではなく、現役の専門学芸員等から各館の展示、バックヤード、経営方針等の解説・説明・指導を受け、各博物館の実態を学んでもらった。



経営学部商学科 柳瀬 昭彦 特任教授

19 社祭り(式内八社の大祭)

2017.10.9 真庭市社地区
商学科:3名
●真庭市から神輿の担ぎ手がないと依頼があり、「社祭り(式内八社の大祭)」の運営協力。地域の方と共に他大学の学生とまじって、巫女役や神輿を担いで回り、地域の文化や伝統にふれた。



産学官連携センター

20 イベントカキオコブース出店協力

2017.10.14~15, 11.11~12
備前市伊部地区 岡山マラソン(岡山県総合グラウンド)
商学科:1年延べ10名(備前焼まつり)
商学科:2年延べ8名、1年延べ4名(岡山マラソン)
●カキオコまつりづくりの会がイベント出店するのを協力するもの。
●カキオコを作る補助者として粉を練ったり、ソースを塗ったり、また販売呼び込み、行列整理、代金授受等を行い、ブースに大きな賑わいをもたらした。



経営学部商学科 三好 宏 教授

21 第8回発想法ワークショップ (岡山商工会議所共催)

2017.10.28 岡山商科大学
商学科:4年3名, 3年1名, 2年1名
●恒例の岡山商工会議所との共催する異業種交流型の研修に学生を参加させるもの。
●社会人へ対し、新顧客を引きつける方法をテーマに、ブレインストーミングとKJ法を行った。



経営学部商学科 三好 宏 教授
経営学部経営学科 大東 正虎 准教授

22 フィールドスタディ (国際観光論)

2017.11.4 島根県浜田市三隈町「石州和紙会館」
国際観光論受講生:34名
●和紙の歴史や製造工程を学ぶ
●石州和紙の紙漉きを体験



経営学部商学科 ソノジツ 講師

23 フィールドスタディ(国際観光論)

2017.11.18 宮島「厳島神社」
国際観光論受講生:30名
●大鳥居、千疊閣、五重塔、多宝塔、大願寺などに足を運び、それぞれ宮島の主要な観光資源の調査実施
●調査結果を取りまとめ、レポート提出



経営学部商学科 ソノジツ 講師

24 竹灯籠づくり

2017.11.19 真庭市社地区
経済学科:1名 商学科:2名
●社地区の大晦日のイベント「第2回やしの竹あかり」用の竹灯籠を地区の子どもたちや岡山県立大学の学生と共に作成。



産学官連携センター

25 事業者別発想法ワークショップ (岡山商工会議所共催)

2017.12.2 興和商事(岡山市)
商学科:4年2名, 3年5名
●興和商事株式様の研修として、発想法ワークショップを実施。
●学生7名が従業員と交じって、ブレインストーミング、KJ法を行う。



経営学部商学科 三好 宏 教授、
大石 貴之 講師
経営学部経営学科 大東 正虎 准教授

26 社会人基礎力育成グランプリ

2017.12.2~12.3 松山大学(愛媛県松山市)
経済学科:4名
●「若者による少子化対策プロジェクト」について報告。
●奨励賞を受賞。(2年連続受賞)
経済学部経済学科 國光 類 講師、井尻 裕之 講師

27 さとまちフェスタ

2017.12.10 アムスメル上之町(岡山市)
商学科:1名
●真庭市社地区が行う竹灯籠づくり体験ブース出店の運営協力。表町商店街にて、岡山大学の学生と共に、来場者が行う竹灯籠作成のアシストをした。



産学官連携センター

28 犯罪被害者支援公開講演会

2018.1.16 岡山商科大学
2017.1.17 岡山市立後楽館中学校
犯罪被害者支援サークル「つばみ」の学生20名(法学部法学科)
●平成29年度岡山市大学生まちづくりチャレンジ事業に採択され、飲酒運転撲滅アドバイザーの山本美也子氏をお招きして講演会を行った。
また、76名の中学生と、大学生でファシリテーションを行い、中学生にも被害者加害者予備軍双方の立場から飲酒運転撲滅について真剣に考えてもらうことが出来、交通安全の意識を高めることが出来た。



犯罪被害者支援サークル「つばみ」
法学部法学科 加藤 藤耶 准教授

29 京山公民館ESDフェスティバル

2018.1.27~28 岡山市北区京山地区
商学科:4年1名, 3年5名
●模擬店ブースで、美作海田番茶、真鍋島にんにく醤油の販売を行う。
●地区の中学生や高校生、地域の人と行うコミュニケーションのためのグループディスカッションにも4名が参加した。



経営学部商学科 三好 宏 教授
産学官連携センター

30 備前醤油の歴史・現状・展望の調査のためのフィールドスタディ

2018.2.5 鷹取醤油株式会社(備前市)
商学研究科院生:2名
商学科3年生:2名
商学科1年生:1名
●岡山商科大学ブランドンギ事業の寄り添い型研究の一環として備前醤油の歴史・現状・展望の調査のために、鷹取醤油を対象にしてフィールドスタディを実施。



経営学部商学科 天野 雅敏 教授

31 備前若者カキオコワークショップ

2018.2.11 備前市日生地区
商学科:1年2名
●カキオコまつりづくりの会と備前若者ネットワークの共催によるまつりづくりイベント。
●学生が観光客にアンケートを取り、そのデータに基づいてこれからの日生のまつりづくりについてディスカッションした。



経営学部商学科 三好 宏 教授

32 農泊推進協議会モニターツアー

2018.2.22~23 真庭市北房地区
留学生:10名
日本人商学科生:2年3名
●中四国農政局と本学の包括協定に基づく、イベント協力。
●真庭北房地区は農泊を推進しており、中国人観光客がこの地に訪れた時に満足し逆に何が都合が等を、本学の留学生に実際に体験してもらい意見を聴取するというもの。
●薪割り体験、もちつき、雛飾りのお手伝い、鍾乳穴や古墳等、観光スポットを巡り、その感想などを記録して回り、地元の方に発表、意見交換を行った。



経営学部商学科 三好 宏 教授
産学官連携センター

33 津山城下町雑めぐり

2018.3.3~3.4 津山市
経済学科:7名
●商大ブースを出展 ●ボランティアとして地域貢献

経済学部経済学科 國光 類 講師

日生カキオコフィールドスタディ

経営学部商学科 教授 三好 宏

日生カキオコまちづくりの会の代表である江端恭臣氏に、商学科の観光振興論特殊講義のゲスト講師として講義いただいているご縁で、昨年度より同会の活動を本学の学生がお手伝いしている。

今年度は6月4日(日)と10月8日(日)に、備前市日生地区での食べ歩き・飲み歩きイベント「ヒナセ♡ノミーノ」の運営スタッフとして、各日それぞれ学生2名が協力した。また、10月14・15日(土・日)の備前焼まつり(備前市伊部地区)では、カキオコ販売ブースでカキオコを作る補助や、受付・行列整理等を2日間で計10名の学生が行った。さらに、11月11・12日(土・日)の岡山マラソンでのカキオコブース出店において



も、延べ12名の学生が全国から集まった出場選手やその家族らに、日生のカキオコを販売しまちのPRに貢献した。

イベントへの協力以外にも、2018年2月11日

(日)では、「備前若者カキオコまちづくりワークショップ」(備前若者ネットワークと同会の共催)に他大学の学生に交じり2名の学生が参加した。学生たちは日生に訪れた観光客にアンケートを取り、そのデータをもとにグループディスカッションを行った。本学の学生からは、「日生駅を降りた時にワクワク感がない!!」等の率直な意見が出された。



学生による会への支援活動は、会のメンバーの人たちにとっても励みになるし、何より来たお客さんからフレッシュな対応が喜ばれていると、高評価を頂戴している。学生の方も、会の様々な年代の人たちとの交流は貴重な社会経験となっているし、販売ブースの手伝いは販売実習という実践の勉強の場にもなっている。引く続き積極的に学生を参加させていきたいと考えている。

学生による会への支援活動は、会のメンバーの人たちにとっても励みになるし、何より来たお客さんからフレッシュな対応が喜ばれていると、高評価を頂戴している。学生の方も、会の様々な年代の人たちとの交流は貴重な社会経験となっているし、販売ブースの手伝いは販売実習という実践の勉強の場にもなっている。引く続き積極的に学生を参加させていきたいと考えている。

大学生と生産者との交流による里庄まこもたけ収穫体験事業

経営学部商学科 教授 三好 宏



2017年10月2日～31日までの1か月間、商学科を中心とした18名の学生が毎日入れ替わりで2～5名里庄町に赴き、まこもたけ収穫体験事業を行った。これは、7年前からまこもたけの

特産品化を進めている同町から依頼を受けて実現したものである。まこもたけとは約2メートルほどになるイネ科の植物で、菌によって茎がタケノコのように肥大化した部分を指す。味はタケノコのようにシャキシャキとした食感だがえぐみはなく、ほんのりと甘みを感じられる。主に高級中華の食材として用いられているが、どんな料理にでも合う。食物繊維やカリウムも豊富で、健康食材としても期待されている。

魅力的な作物のまこもたけだが、町では思うように生産農家の拡大が図れていない。それは、植え付けから収穫、出荷までほとんど手作業で行わなければならないからであ

る。特に10月の1か月間の収穫は、ぬかるんだ圃場で一つ一つ生育状況を確認しながら、適切なもののみを刈り取るという大変な重労働である。

こうした事態を打開するため、町は収穫を支援する学生を派遣することで、生産者の作業負担を軽減させると同時に、学生との交流による生産意欲の向上を図ろうと、協力要請となったのである。

現地では、学生は収穫から出荷、時にスーパーでの試供販売を手伝った。慣れない農作業であったが、高い値段で引き取ってもらうためには、鎌をどこに入れるか、虫が混じっていないか等一つ一つの作業に細心の注意が必要ということが理解できたようである。この事業は来年度も生産者 とより連携を強めて、里庄まこもたけブランドの確立に向けて協働することが約束されている。



第6回経済学部ゼミ対抗 プレゼンテーション大会について

経済学部経済学科 准教授 山下賢二

経済学部では2017年11月30日に、3・4年生を対象にゼミ対抗プレゼンテーション大会を開催いたしました。本大会は所属ゼミへの学生の帰属意識を高め、ゼミ生同士の交流・親睦を深めながら、協調性やプレゼン力などを磨くことを目的として2012年より毎年開催し今年度で6回目を迎えました。また、準備、発表、当日のプログラム運営に至るまで学生が中心になって行っております。今年度も11ゼミが発表しました。内容も時代の最先端をゆくものからじっくりと腰を据えて歴史を取り扱ったもの、資料に基づいた理論的・実証的なものからアクティブ・ラーニングの成果を生かしたものまで多彩でした。質疑応答も活発でよい緊張感が漂う場でもありました。どのゼミも昨年よりもテーマを深く掘り下げており、発表資料の見せ方や話し方についても年々レベルが上がっております。そこで今年度は従来の総合1位から3位、敢闘賞(昨年の努力賞)、デザイン賞に加え、スピーチ賞を設けました。また、審査も各ゼミ1票、教員1票とし、より公正な評価が行われるようにしました。各ゼミのテーマは発表順に「衝撃のキャッ

シュレス社会」(三谷)、「オークションの世界へようこそ」(加藤)、「インフルエンサーマーケティングがもたらす経済効果」(佐井)、「若者による『少子化対策』プロジェクト」(國光)、「織田信長の改革～経済から見た戦国時代～」(両角)、「少子高齢化の日中比較」(田中康秀)、「人民元はドルに取って代わるか?」(田中勝次)、「無現金決済社会」(山下)、「中国の経済成長と技術」(駿河)、「オリンピックの経済効果持続戦略」(佐藤)、「日経ストックリーグ」(井尻)【※()内はゼミ指導教員(敬称略)】と多彩でした。総合1位は加藤ゼミ、2位は佐井ゼミ、3位は佐藤ゼミ、敢闘賞は井尻ゼミ、デザイン賞は山下ゼミ、スピーチ賞は佐井ゼミ(総合2位とダブル受賞)に決まりました。商大経済学部生の真価と進化が見られる大会でした。来年度の第7回もご期待ください。



文部科学省 平成29年度私立大学研究ブランディング事業 採択(3年間)

研究テーマ 『寄り添い型研究』による地域価値の向上

副学長 大崎 紘一

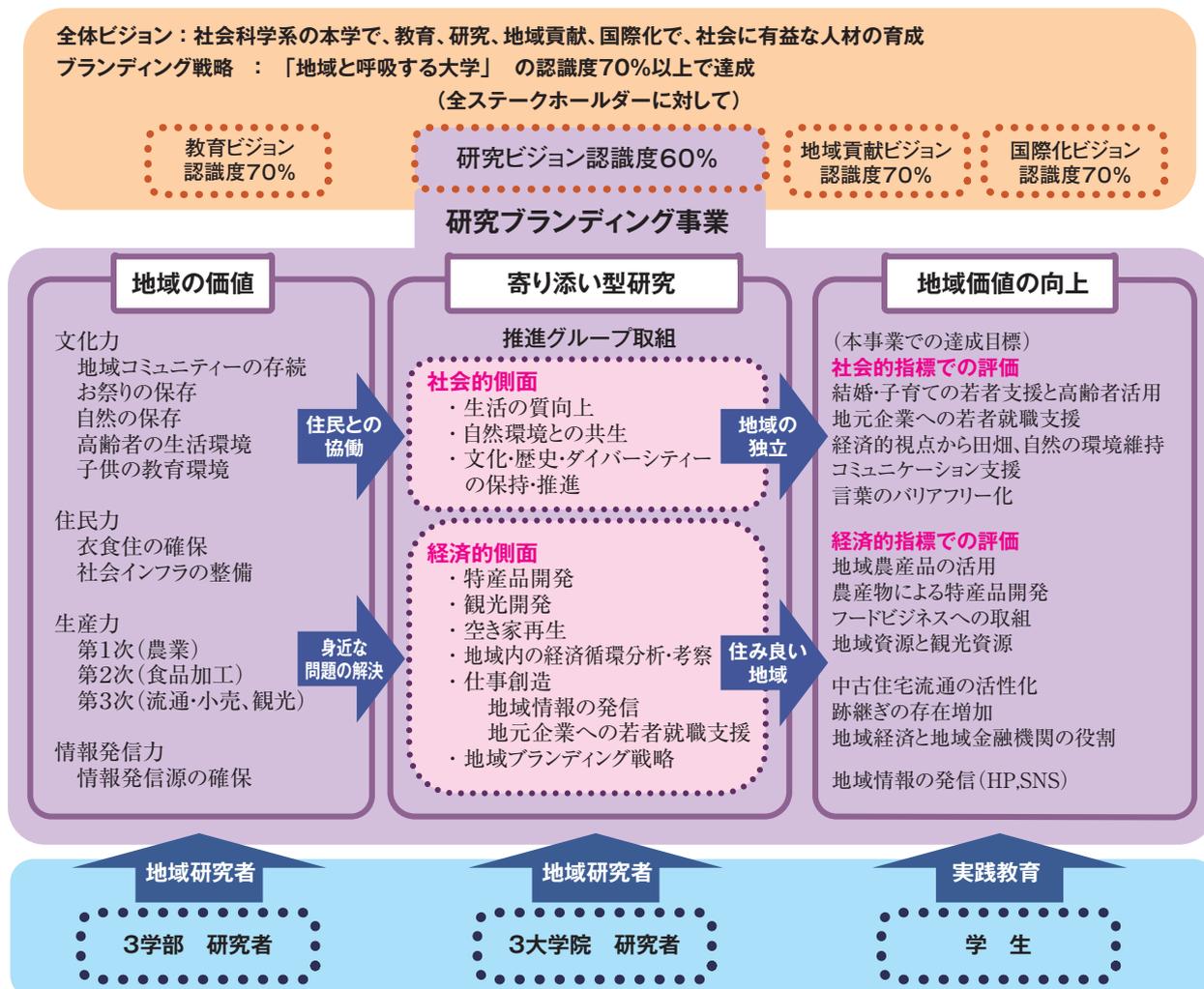
平成28年度から始まった大学として研究によるブランディングを確立することを目的とした研究ブランディング事業に本年度は表記のテーマで申請し3年間の研究期間と、地域の経済・社会、雇用、文化の発展に寄与する研究(タイプA)として採択された。

この研究の基礎になっているのは、本学が約10年間で順次行ってきた岡山県内8市町村との包括連携協定の締結により、各自治体との連携した教育研究活動である。これらの活動を『寄り添い型研究』、即ち、地域で専門的な研究を進めると同時に、「地域と同じ目線」に立って、地域に於ける各種の取組みに、学生、教職員が積極的に参加協力するという「共同/協働研究」として全体を構成している。そして「寄り添い型研究」を通して、「魅力あるまちの創造」に貢献する大学としてのブランドイメージ=「地域と呼吸する大学」の認識度の浸透、確立をはかる。

この事業に申請する本学の取組としては、「本学のブランディング事業」で学内の先生方がグループで地域の研究をする仕組みを平成28年度から実施し、1年間の実績に基づき全学的に各先生方の研究テーマを包括して、大学としての研究のブランディングとなると考えたからである。また、産学官連携センターを中心にして岡山県内8市町村との包括協定が締結でき、学生、教員がそれぞれの市町村に出向き地域と連携した教育研究活動を実施していることも本学の特色である。

これらの研究・教育活動は、地域で専門的な研究を進めると同時に、「地域と同じ目線」に立って、地域に於ける各種取組み

1. 構成図



に、学生教職員が積極的に参加協力するという「共同/協働研究」として、『寄り添い型研究』ということにし本申請をまとめた。

そして、研究成果と共に本学のブランドイメージ＝「地域と呼吸する大学」を浸透させ、確立することを目的とする。具体的には、本学の認識度を全ステークホルダーに対して70%以上にすることに取組む。

具体的な研究テーマは、社会的側面で3研究テーマで3研究グループ、経済的側面では6研究テーマで11研究グループ、合計14研究グループが研究を推進している。

社会的側面の研究テーマでは、それぞれの研究テーマには1研究グループであり、(1)生活の質の向上、(2)自然環境との共生、(3)文化、歴史、ダイバーシティの保持・推進の3研究グループで研究を推進している。

他方経済的側面の研究テーマでは、(1)特産品開発では4研究グループがそれぞれのテーマ、(2)観光開発では2研究グループ、(3)空き家再生、(4)仕事創造では2研究グループ、(5)地域内の経済循環の分析・考察、(6)地域ブランド戦略の11研究グループで研究を推進している。14研究グループには、本学の教員26名が参加し、研究対象地域を主として8市町村に設定し、研究課題、評価指標、達成目標を掲げて、3年間の研究を実施している。

研究推進に当たり、地域との連携を円滑に行うために、包括協定締結8市町村からの8名の委員で構成する「RB事業委員会」を組織し、研究活動のご支援を頂いている。また、研究成果の外部評価のために、外部委員(市町村長：2名、経営者：1名、岡山経済同友会会員：1名)で構成された「教育研究協議会」を設置し、全体評価を行っている。

2. 研究ブランディング事業一覧：研究テーマと研究対象地域

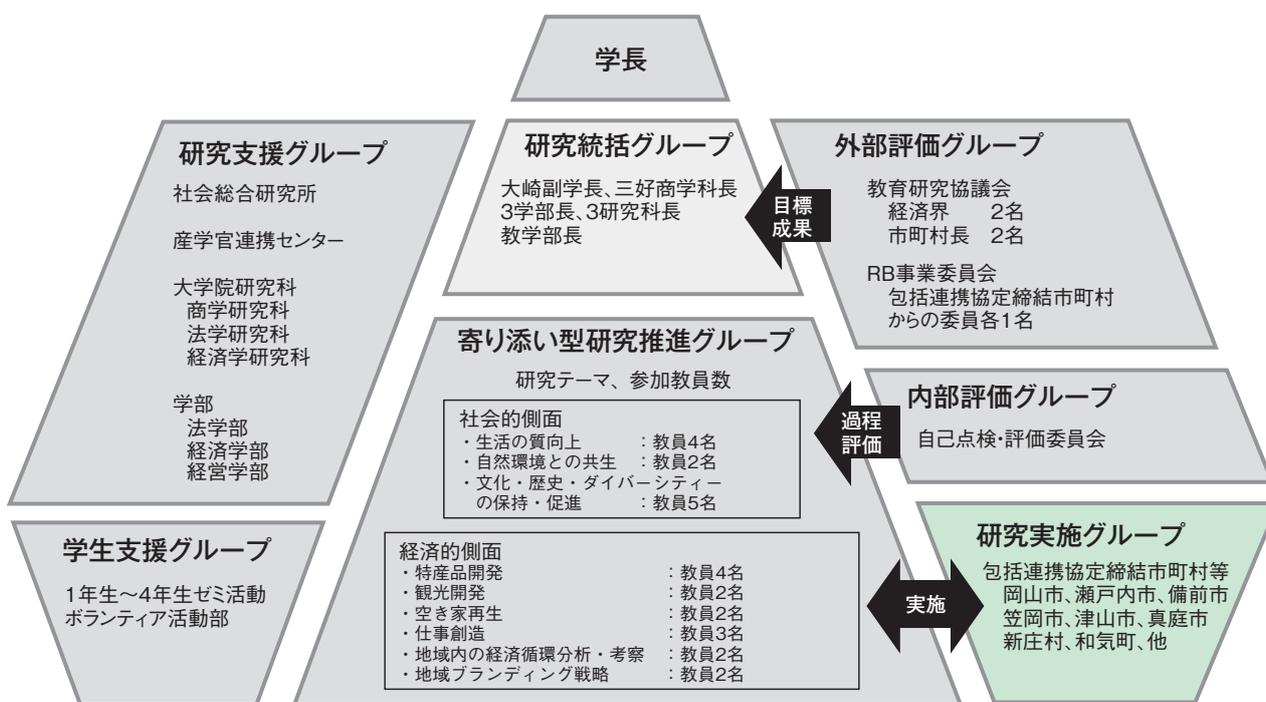
社会的側面の研究テーマと研究者	対象地域	評価指標	達成目標		
			平成29年	平成30年	平成31年
生活の質の向上					
結婚・子育てに向けた若者支援と高齢者の活用 國光講師、三谷教授、田中(勝)教授 佐々木講師	津山市 瀬戸内市	地域創生の理論構築 人ロシミュレーション ヒヤリング調査 2市との打合せ 政策評価 報告会	2回発表 1市実施	1市実施 2市実施 4回	2市実施 2市開催
自然環境との共生					
農業振興と自然環境との共生に関する経済分析 加藤(真)准教授、田中(勝)教授	津山市	地域産業連関表 CO ₂ 排出量削減効果 超過環境負担率 報告会	1市作成 1市算出	1市精査 1市算出	1市算出 2回開催
文化、歴史、ダイバーシティの保持・推進					
岡山市におけるコミュニケーション支援 及び言葉のバリアフリー化 宮教授、全准教授、黎准教授、松浦准教授、 徐講師	岡山市	行政へのヒヤリング 現地調査 外国人観光者数 アンケート調査 定住外国人人数 報告会	3回 3回 2回調査 2回 2回調査 2回実施	3回 3回 1回調査 2回 2回調査 2回実施	2回 1回 2回調査 2回実施
経済的側面の研究テーマと研究者	対象地域	評価指標	達成目標		
			平成29年	平成30年	平成31年
特産品開発					
備前醤油の歴史・現状・展望 天野教授	岡山市 倉敷市 備前市	実地調査 フィールドスタディ 研究成果報告会	6回実施 1回実施 1回実施	6回実施 1回実施 1回実施	4回実施 1回実施 2回実施
地域農産物を活用した加工食品の商品開発 岸田教授	瀬戸内市	地域との協働作業 ボランティア活動 作物の種類別調査 加工食品の種類別調査 商品開発の試作会	2回実施 2回実施 2回実施 1回実施 1回実施	2回実施 2回実施 2回実施 1回実施 1回実施	2回実施 2回実施 2回実施 1回実施 2回実施
岡山県におけるフードビジネスと地域活性化 渡邊准教授	総社市	現地調査 地域と協働作業 報告会	3回実施 2回実施 1回実施	3回実施 2回実施 1回実施	2回実施 2回実施 2回実施
蒜山地域における農産物を活用した特産品開発 大石講師	真庭市 蒜山高原	地域と協働作業 聞き取り調査 アンケート、聞き取り調査 地域資源の発掘数 新商品の販売店舗数	5回実施 10回実施 10件	3回実施 50名 3件	3回実施 3件 3店舗
観光開発					
湯原温泉における新たな地域資源を 生かした観光振興 大石講師	真庭市 湯原温泉	地域と協働作業 観光客アンケート調査 観光施設インタビュー調査 地域資源の発掘数	5回実施 50人実施 20件実施 10件実施	5回実施 50人実施 20件実施 10件実施	5回実施 50人実施 20件実施 10件実施
笠岡市真鍋島の観光振興 三好教授	笠岡市 真鍋島	ボランティア活動 地域での観光イベント開催 イベントでの特産品販売 特産品開発での協働作業 観光プランの実践	5回実施 1回実施 2回実施 随時	5回実施 1回実施 3回実施 随時	3回実施 1回

空き家再生 中古住宅流通の活性化、地域資産の有効活用 海宝准教授、高林教授	備前市 津山市	宅建業者へのアンケート調査 宅建業者へのインタビュー調査 中古住宅の実態調査 自治体等への調査報告	3回実施 3回実施 200件実施	3回実施 50件実施	2回実施
仕事創造 地域の情報発信 スタンプラリーゲーム支援機能と地域のPR機能を有し、スマートデバイス上で動作するアプリ開発 箕輪准教授	新庄村	アプリダウンロード(DL)数 アプリによる訪問者数 地域情報発信数 報告会	300DL 100名 600件	300DL 100名 600件	300DL 100名 600件 2回
地元企業への若者の就職支援 大東准教授	岡山市	インターシップ参加学生数 就職者数、 就職に対する目的意識変化	1回調査 1回調査 1回調査	2回調査 2回調査 2回調査	1回調査 1回調査 1回調査
地域内の経済循環の分析・考察 地域経済における金融の役割 金融パフォーマンス クラウドファンディング 鳴滝教授、井尻講師、山根准教授	岡山市 瀬戸内市	アンケート調査 仲介事業者調査 フィールドスタディ調査 報告会	2地域 2事業者	15社調査 1回実施 2回実施	4回実施
地域ブランド戦略 観光客、移住者の増加に向けた地域ブランド戦略 三好教授、横澤准教授	和気町	ヒアリング調査 観光・まちの魅力資源調査 まちのPR動画の作成 観光プランの作成 報告会	2回実施 3回実施	1回 1回	1回実施 2回実施

3. 本学の教育研究活動に関する「認識度」を向上させる対象としてのステークホルダー

本学活動	所掌部署	認識度を確保する必要があるステークホルダー
学生確保活動	入試部	高校生、高等学校教員、保護者
学生教育活動	教学部、各学部	学生、教職員、保護者、高校生、企業関係者
研究活動	各学部、各研究科	教員、学生、自治体関係者、企業経営者
就職活動	キャリアセンター	企業就職担当者、学生、保護者、高等学校教員
地域連携活動	産学官連携センター	自治体関係者、企業経営者、教職員
国際交流活動	国際交流室	学生、教職員、一般社会人

4. 事業実施体制



科学研究費助成事業への取り組み

科学研究費補助金(科研費)とは、わが国の学術振興を図るため、人文・社会科学から自然科学分野まで、あらゆる分野における独創的・先駆的研究の発展を目的とする文部科学省による研究助成費です。

大学等の研究者又は研究グループが自発的に計画する多様な学術研究のうち、学術の動向に即して、特に重要なものを取り上げて研究を助成するものです。学術研究を推進し、わが国の研究基盤を形成するための基幹的な経費として、その役割を果たしています。(平成29年度予算額約2,284億円、採択課題数2万5千件。)

本学からも、毎年多数の研究者が応募を行っており、平成29年度では以下のテーマで研究費の交付を受けています。研究分担者としての参画も増えており、研究活動の広がりが窺えます。

不正行為、不正使用の防止について

文部科学省では、公的研究費を適切に使用するための指針である「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」を平成26年2月18日に改正し、研究機関に公的研究費の使用に当たっての適切なルール の制定と運用を求めています。また、平成26年8月26日には「研究活動の不正行為への対応等に関するガイドライン」が制定され、研究活動における不正行為が発生しないよう、倫理教育の徹底と、発生した場合の適切な対応を求めています。

本学では、平成27年3月に関連規程を整備し、研究活動の不正行為の防止、研究費の不正使用の防止に向けて取り組みを進めています。平成28年10月1日からは「岡山商科大学における研究データ等の保存・開示に関する内規」を施行し、適正な研究を行うための体制を整備しました。

また、これまで「研究費の不正使用、研究活動における不正行為の防止」をテーマとした研修会を実施し、理解度を把握するためのチェックリストを配布し、不正防止の徹底に努めてきましたが、平成29年度から、研究倫理教育の方法を見直し、教職員及び大学院生は、日本学術振興会による研究倫理eラーニングの受講を、学部学生は1年生と3年生については、ゼミで研究倫理教育を受けることになりました。

2017年度採択中の科研費

研究種目・期間	研究課題	研究者(所属)
基盤研究(A)[研究代表者]H26~29	日欧自動車メーカーの「メガ・プラットフォーム戦略」とサプライチェーンの変容	古川 澄明(経営学部・教授)
基盤研究(C)[研究代表者]H26~29	アジア移植ツーリズムに関する社会調査の実施とそれに基づくELSIの検討	栗屋 剛(法学部・教授)
基盤研究(C)[研究代表者]H26~29	学歴と賃金構造の国際比較	三谷 直紀(経済学部・教授)
基盤研究(C)[研究代表者]H26~29	民主主義理念と次世代市民の道徳性育成の歴史的展開と将来像に関する研究	伴 恒信(経営学部・教授)
基盤研究(C)[研究代表者]H26~29	商業における老舗の競争優位に関する地域間比較研究	田村 直樹(経営学部・准教授)
基盤研究(C)[研究代表者]H27~29	価値合理性の復権—とくに新カント学派の規範概念を中心に	九鬼 一人(法学部・教授)
基盤研究(C)[研究分担者]H27~29	中学生の批判的思考力を育成する社会科授業開発に関する発達の研究	前田 健一(経済学部・教授)
基盤研究(B)[研究代表者]H28~30	公的大規模データの利用におけるプライバシー保護の理論と応用	佐井 至道(経済学部・教授)
基盤研究(C)[研究分担者]H28~30	北海道における高齢者の孤立化に関する発展的研究	栗屋 剛(法学部・教授)
基盤研究(C)[研究分担者]H28~30	高度先端医療の説明義務と裁量に関する倫理・法・社会的視点からの複合的研究	栗屋 剛(法学部・教授)
挑戦的萌芽研究[研究代表者]H28~30	アジア和僑ビジネスと日本地方農水産業：国際ロジスティクス・ネットワークの併呑	古川 澄明(経営学部・教授)
若手研究(B)[研究代表者]H28~30	複数事例の進展統合化グラフによる事業所内の潜在的リスク可視化システムの開発	箕輪 弘嗣(経営学部・准教授) 伊藤 治彦(法学部・教授)
基盤研究(A)[研究分担者]H29~33	イギリス公法訴訟における違法性の判断構造に関する研究	
基盤研究(B)[研究分担者]H29~32	「子宮移植」の是非を問う—倫理的・法的・社会的課題(ELSI)の検討から—	栗屋 剛(法学部・教授)
基盤研究(C)[研究代表者]H29~31	「手術誘引」の研究	栗屋 剛(法学部・教授)
基盤研究(C)[研究代表者]H29~31	アイトラッキング・データを活用した消費者行動の分析	大東 正虎(経営学部・准教授)
挑戦的萌芽研究[研究分担者]H29~31	認知症患者の人権保障に向けた学際的研究	栗屋 剛(法学部・教授)
若手研究(B)[研究代表者]H29~30	経済的アプローチからみた新たな家族制度とそれに対応する租税法の探求	加藤 友佳(法学部・准教授)
厚生労働省科学研究費[研究代表者]H29	フグ処理者の認定手法の標準化に関する研究	古川 澄明(経営学部・教授)

文部科学省補助金 平成29年度私立大学等改革総合支援事業 4タイプ採択

副学長 大崎 紘一

本事業が開始してから5年目となり、日本全国私立大学の約8割が申請をし、得点上位から採択枠までの大学が採択されるという競争的環境において、本学としての取組により、従来の4タイプ全てで平成29年度は採択された。4タイプ全てで採択された大学は、473採択大学の内4大学のみであり、全学的な取り組みの成果である。

過去5年間で継続して採択されているのは、次の3つのタイプである。

1)タイプ1(建学の精神を生かした大学教育の質向上) は、5年間継続して採択されているが、設問内容が毎年更新されるため、本学での取組みも常に改革を続けていく必要がある。タイプ1の採択予定件数は、申請時350件であり、実質は大学:226件、高専・短大:116件の342件となっており、大学では申請件数の50%が採択となっている。特に大学に於いては、タイプ1の採択件数を多くしているのには、学生の質を学力の3要素に基づいてどこに力点を置いて各科目が教育をし、その成果を見える化する改革への取組をすることになると考えて、本学では、シラバス2で科目の達成度を学力の3要素の9項目について比率で示す取組みを推進している。

2)タイプ2(特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり) は、産学官連携センターを2008年4月に設置し、笠岡市を始めとして地方自治体との包括協定を順次締結した実績の下での取組みであるが、設問に示される活動の実績が十分ではないため、得点が低くなっている。特に大学に於ける社会人に対する各種のプログラムは準備しているが、社会人からの応募が極めて低調であることから、社会人の側に立って、受講してみたいプログラムに改革しなければならない。現状の活動レベルでは、早晚採択ラインに達しない状況に陥る危険があるので、出来るところから確実に改革を進めて行く。

3)タイプ4(グローバル化への対応) では、本学の外国人留学生の受け入れのための体制、実践的語学力の習得のための受入・教育体制の整備ができていないことに依存している。しかし、本学学生の海外留学の意欲の低さは、他大学も同じような傾向であろうが、留学生の受入と、本学学生の海外提携校への派遣の取組が課題である。



以上3タイプについては、5年間の実績があり、今後も改革を進めながら申請、採択に努力をする。

4) タイプ3(産業界・国内の大学等との連携した教育研究) は、平成29年度採択されたが、産学連携の設問に対しては、産学官連携センターの活動として企業との連携活動を推進しているため、対応した活動を行っている。ただ、本学は社会科学系の学部で構成されているため企業との共同研究、受託研究、大学発のベンチャーの創立についての取組は低調である。更に他の国内大学等との連携については、私学としての「建学の精神」の違いにより連携が難しいものとの考えであったが、研究、教育を通しての他大学との繋がりを大学間包括連携協定にまで発展させることにより、設問の幾つかを満たすことが出来た。しかし、更に一步進んで、単位互換制度、学生の派遣・受入、教職員の人事交流にまで連携活動を行えるようにすれば、今後も安定して、タイプ3の申請・採択が可能になる。

以上の様に、申請を継続することにより、本学の強い点、弱い点がハッキリしてきているので、今後各タイプとも設問項目の内容の変更、高度化を要求してくるので、それへの対応をしながら、本学の教育・研究の特色を向上させる取組みを進めて行く。

5) タイプ5(プラットフォーム形成) として、平成29年度からは、新たに複数大学が協力して申請するプラットフォーム形成が新設され、9プラットフォームが採択をされている。九州地区、兵庫地区、コンソーシアム京都のプラットフォームは、参加大学の多いプラットフォームであり、今後はコンソーシアムが組織されている地域でのプラットフォーム申請が多くなることが伺える。また、平成30年度からは、このプラットフォームに対して地方交付税措置が予定されていることから申請が多くなるであろう。

「日ようび子ども大学」

平成29年6月4日(日)に、岡山県生涯学習センターにおいて大学コンソーシアム岡山主催による「日ようび子ども大学」が開催され、県内14大学、2短期大学がブースの出展を行いました。昨年度は過去最多となる2,500名を越える参加がありましたが、各ブースが収容できる人数を大幅に超過し、混乱が生じたため、平成29年度は広報を控えた結果、約1,500名の参加となりました。その結果、各ブースとも落ち着いてイベントを実施することが可能となりました。

本学が毎年出展するキッズマネー教室は、年間行事の代表的なイベントを例に出し、自分が欲しい物を手に入れるまでの計画を立案し、手に入れるまでの過程で、お金についての知識・理解を身につけることを目標とする、金融教育に関する出展です。

例年、経営学部高林宏一教授が学生指導にあたっていましたが、本年度は海宝賢一郎准教授が指導にあたりました。ゲームは1回45分程度で、11時から、閉会までの間、計4回実施しました。1回当たり6～8名の児童が参加し、学生18名が班に分かれて、ゲームの実施にあたります。児童にとってわかりにくいお金についての教育を、シナリオゲームを用いてわかりやすく伝えるキッズマネー教室は、児童とその保護者に好評をいただいています。

参加者から回収したアンケートでは、「日ようび子ども大学は楽しかったですか」の問いに対し、「楽しかった」等と答えた方が83%、「日ようび子ども大学に魅力を感じたことは何ですか」の問いに対し、「大学の先生や大学生とふれあえて良かった」が33%、「子どもにとって刺激や教育効果があった」が55%と、「県内の大学のことを知ることで良かった」が7%など、有効な取り組みであることが窺えました。

個別の意見では、県北や備前市で実施して欲しいなど、県内各所で実施して欲しいとのご意見が見られました。保護者の方から「商科大学はとてめ勉強になって楽しそうでした。」とのご意見もいただきました。



環境について考える「エコナイト」



平成29年7月8日(土)に、8大学2短大の学生が参加しエコに関する展示や発表を行うイベント「エコナイト」が奉還町商店街振興組合との共催として、奉還町商店街「りぶら」周辺で開催されました。

本学は昨年度から新しい取り組み「リユースをゲームで!」を実施しています。家庭で不要になったものやアウトレット品を集め、射的の景品とするゲームです。もともと「不要とされている物」を、「射的」というゲーム性を加えることで、「欲しい物」に変えるという仕組みです。射的は子どもたちの関心が高く、多くの来場者を集めていました。開催日は、奉還町商店街土曜夜市に設定されているため、夕方からはとても多くの来場者があり、射的の待ち行列が途切れることが無いほど賑わいました。

ブースでは、真鍋島でのフィールドスタディで栽培された島ニンニクを使ったニンニク醤油と美作市海田地区で栽培された天日干し番茶も販売されました。他にも、お祭りのお手伝いをしている真庭市社地区から提供された竹灯籠も展示され、道行く人が時折足を止めて、写真に収めていました。



2019年度3月卒の就職活動

就職活動解禁日(3月1日)を目前にして 慌ただしさ目立つ!

2019年3月卒業予定者の就職活動解禁日は3月1日となっているが、企業は求める人材に早く出会いたいとの一心からか、昨年度と比べその解禁前の慌ただしさが非常に目立っている。

まずは、日本経済団体連合会が提唱するインターンシップの日数規定(5日以上)が2018年の就職活動から廃止となり、1日のみのインターンシップ(1DAYインターンシップ)が可能となった。これにより、今年度からほとんどの企業が12月から2月にかけてインターンシップを実施するようになった。インターンシップの本来の趣旨は就業体験であるが、1DAYインターンシップの多くはセミナースタイルで、業界や仕事について理解を深めるものとなり、業界・企業研究するのに便利なものとして多くの学生が参加するようになっている。本学キャリアセンターの掲示板には、各社のインターンシップのチラシで溢れ、もう貼る場所が無い状態となっている。

他にも、リクルートやマイナビなどの就職支援業者が、多くの企業と学生が接触できる合同説明会を頻繁に開催している。本来ならば解禁前に説明会は開催できないものだが、自社の説明会ではなく、インターンシップセミナーや業界セミナーと称して実施すれば問題はない。岡山で開催されるこのようなセミナーだけでも、12月から2月にかけて12回も実施されている。当然、企業としては優秀な学生の早期発見や囲い込みとして出展するので、大規模なセミナーであれば50社以上の企業が参加している。

このように、就職活動の解禁日は3月1日となっているが、このルールはあくまでも日本経済団体連合会が定めた倫理憲章上のルールであり、実際、多くの企業がその時期よりも早い段階で学生との接点を取り始めている。1DAYインターンシップと就職

活動解禁前の各種セミナーについては賛否両論あるが、本学キャリアセンターとしては、このような動きを「業界・企業研究」や「就職活動前の下準備」の新たな形として捉え、学生にはこの動きに乗り遅れないように指導していきたい。

**学内合同
企業説明会▶**
(2017年4月5日・26日、
5月24日開催)



**◀第4回
就職ガイダンス
「個人面接&グループ
ディスカッション」**
(2017年11月22日開催)

**身だしなみ
準備セミナー▶**
(2017年12月20日開催)



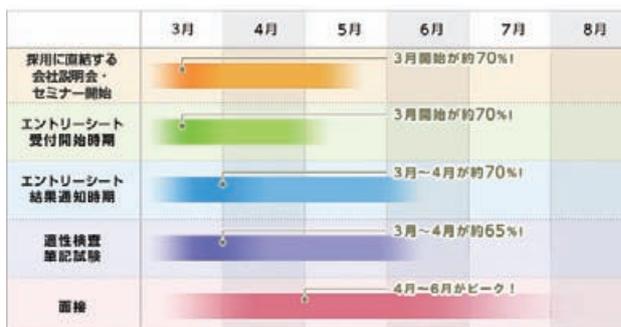
◀就職合宿
(2018年2月21日～
22日開催)

2019年度3月卒業対象就職ガイダンス予定表

2018年6月20日(水)	第1回 就職ガイダンス 「仕事ができそうな学生と思われたい!!」 場所:地域交流談話室(学生会館2階)
2018年10月3日(水)	第2回 就職ガイダンス 「こんな会社でこんな風に仕事がしたい!!」 場所:地域交流談話室(学生会館2階)
2018年11月14日(水)	第3回 就職ガイダンス 「エントリーシート&履歴書」 場所:地域交流談話室(学生会館2階)
2018年11月21日(水)	第4回 就職ガイダンス 「個人面接&グループディスカッション」 場所:地域交流談話室(学生会館2階)
2018年11月28日(水)	第5回 就職ガイダンス 「就活前に知っておきたいSPIの基礎知識」 場所:地域交流談話室(学生会館2階)
2018年12月12日(水)	第6回 就職ガイダンス 「リクルートスーツの着こなし方」 場所:地域交流談話室(学生会館2階)
2018年12月19日(水)	第7回 就職ガイダンス 「髪型&メイクで内定率アップ」 場所:地域交流談話室(学生会館2階)
2019年1月9日(水)	第8回 就職ガイダンス 「就職活動の戦い方を組み立てる!!」 場所:地域交流談話室(学生会館2階)
2019年2月6日(水)	第9回 就職ガイダンス 「3/1就活スタート。スタートダッシュに負けるな商大生!!」 場所:地域交流談話室(学生会館2階)
2019年2月20日(水)	第10回 就職ガイダンス 「90分でわかる就職活動～合説の回り方～」 場所:地域交流談話室(学生会館2階)

企業の採用活動スケジュール

(出展:2018年卒マイナビ企業新卒採用予定調査)



※採用スケジュールは企業によって異なります。上図は「2018年卒マイナビ企業新卒採用予定調査」による、各選考段階でもっとも回答数の多かった開始時期を表示しています。

訪日中国・台湾人観光客を 対象とした販売実習の 取り組みについて

倉敷市立精思高等学校

校長 寺岡 直樹
教諭 矢吹 志郎
教諭 橋本 英俊

1 はじめに

本校は、昭和26年に設立された夜間定時制高等学校で、普通科と商業科の2学科があり、現在約100名の生徒が在籍している。近年は、「思いやりのある豊かな人間性と、社会の一員としてふさわしい行動のとれる社会性を身につけさせる」ことを目的とした社会貢献活動に取り組んでいる。その中心となる取り組みの販売実習と商品開発は、東日本大震災復興支援を目的として始め、商品を販売した収益金を被災地に寄贈している。また、学校近隣の住民との触れ合いを目的とした「わかばフェア」は、企業から提供された商品を販売する「チャリティーバザー」子どもたちを対象とした「手作りゲームコーナー」などを企画催し、毎年多くの来場者で賑わっている。

2 社会貢献活動

東日本大震災や熊本地震等の甚大な被害をもたらした災害から被災地の復興支援のために、商業クラブの生徒を中心として主に以下のような活動を行っている。

(1) 商品開発

本校生徒がデザインなどを考案した物を岡山県に本社を置く企業と共同開発した。商品には被災地の復興を願うメッセージを持たせるとともに、購入者の満足度を満たす商品となるように心掛けた。次に紹介する商品は、現在本校で販売しているものである。

- ・ 商品名：ポーチ
- ・ 特徴：岡山市に本社を置くストライプインターナショナル社と共同開発したものである。表面は、ピンク地に同社の人気ブランドのロゴと本校生徒がデザインした羊がプリントされている。羊は眠りのシンボルとされ、被災された方の安眠を願って東日本大震災発生以来本校の開発商品に使用されている。裏面は、ピンクと白のストライプ柄となっている。また、ペンケースとしても使用できる。



(2) 販売実習

収益金を災害被災地に贈るとともに、言葉遣いや礼儀など接客マナーを身に付けることを目的として実施している。年間5回程度、岡山県を代表する観光地である倉敷美観地区や「倉敷音楽祭」などのイベント、共同開発企業の主な顧客である若者の集客が見込める大学や専門学校の学園祭に出店している。上記(1)の本校の開発商品などとともに災害被災地にあるNPO法人の商品を展示・販売することで売り上げに協力することができた。また、パネル等を掲示することで被災地の現状を多くの方に知らせることができた。

(3) 街頭募金

熊本地震や九州北部豪雨など甚大な被害をもたらした災害発生時には街頭募金を行っている。JR倉敷駅南2階デッキに於いて手作りの幟を掲げ、駅利用者など多くの市民に協力を呼び掛けることで毎回多くの浄財を託され、被災地に贈ることができている。



3 訪日中国・台湾人観光客を対象とした販売実習の取り組み

先にも述べたとおり本校では、年間4～5回程度販売実習を行っている。その内の2回は倉敷美観地区内の「倉敷館」を会場としている。倉敷美観地区は、昨年度は約380万人が訪れた岡山きっての観光地である。その中にある倉敷館は1917年倉敷町役場として建てられ、現在は観光案内所の役割を果たすとともに無料休憩所として多くの観光客で賑わっている。

本校では、2011年の東日本大震災発生後から倉敷館を販売実習の会場として使用しているが、以前と変わってきたことは、外国人観光客の増加である。インバウンドという言葉をよく耳にするようになったが、倉敷もご多分に漏れず多くの外国人が訪れて来るようになった。現在、倉敷館の来館者の約半数が外国人観光客であり、多い日は約8割を占めるようになっている。その中でも特に多いのが中国語を公用語とする中国、台湾と韓国からの観光客である。本校の販売実習には彼らは、販売中の本校商品に興味を示してくれることもあるが、言葉の壁は厚く販売へと結びつくことは無かった。優良顧客と成りうる可能性のある彼らをみすみす逃すのは、もったいない話である。そこで、生徒に中国語を習得させ、販売増加を目指すこととした。しかしながら本校には中国語を指導できる教員がいないため、中国人留学生が多数在籍している岡山商科大学に協力を依頼した。岡山商科大学から2名の留学生を講師として迎え、事前の中国語講座と当日の販売実習で指導して頂いた。

(1) 中国語講座

11月から1月までの間に月1回、1回あたり1時間の講座を実施した。講座の内容は、挨拶など日常生活の中で交わされる会話や「いらっしゃいませ」「人気商品です」「限定商品です」や価格、自己紹介など販売実習時に必要とされるものに絞り込みをした内容について指導を受けた。その際には、内容が正しく相手に伝えられるように発音には細心の注意を払うようにした。また、会話だけではなく、中国人の好む色や数字、言葉、レイアウトなども教えて頂き、数字の8や9を記入した派手な配色で人目の付くPOPを作製し、販売実習に備えた。

(2) 販売実習

本校生徒に中国人留学生を加えたメンバーで、倉敷館にて販売実習を行った。本来は中国人観光客の増加が見込める春節の頃を計画していたが、会場の事情により1月中旬での実施となった。当日は、年末・年始の長期休暇から間もないことに加え、寒気団の影響で倉敷川が凍結するような寒い一日であった。これらの要因により、本校が今までに倉敷館で行った販売実習で最も客数が少ないものであった。来館者も少なく開店休業中の状況の中、一人の女性が商品に興味を示していた。話を聞くと、この女性は台湾からの観光客であった。生徒が覚えたての中国語で話しかけることで購入へと結びつけることができた。その後は、中国人留学生の呼び込みによる大口客や日本人客からの購入があり、当初の目標には到達しなかったが、無事閉店時間を迎えることができた。



4 おわりに

岡山商科大学の中国人留学生の支援を得ることで当初の目標である販売実習を実施することができた。販売実習当日は、前述のとおり条件に恵まれず、売上金は当初の目標に達することはできなかった。しかしながら、最近実施した日本人客だけを対象としたものは上回ることができ、今後の販売活動が大いに期待できるものであった。また、本校生徒の中国語に対しても「発音が良く、上手」とお褒めの言葉をいただくことができた。初の試みとしては、評価に値するものであったと言える。

ただし、今回の販売実習の最大の功労者は2名の中国人留学生である。本校生徒は、販売に関する言葉を一方的に話しかけただけで、特に聞く力は不足しており、中国人観光客からの問いかけに対しては、「不知道(わかりません)」と答えることしかできなかった。そのような時に日本語に訳し、適切な助言をしてくれたのが彼ら中国人留学生であった。自分たちの力不足を実感させられる販売実習に終わったが、いつの日にかは、生徒たちの力だけで中国人観光客に対応できるよう一層の研鑽を積んで行きたい。

▼教員免許状更新講習

教員免許状更新講習について

教員免許更新制は、「その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すもの」と位置づけられています。

本学の更新講習が、今後の教育や研究活動の一助となり、また、県内外の高等学校の先生方同士の交流の場となり得ることができれば幸いです。

平成30年度も「選択領域2講座」を開講予定です。詳細につきましては、本学ホームページ上でお知らせいたします。募集要項の郵送も可能ですので、遠慮なく、お申し付けください。

お申し込みをお待ちしております。

★平成30年度の受講者募集の詳細は、
本学HP (<http://www.osu.ac.jp>) をご覧ください。

平成 29年度

○8月8日(火)

「英国のEU離脱と米国のトランプ効果、
クオリティマネジメントにおける統計的品質管理
(ビジネス経済・ビジネス情報処理)」 田中 勝次・西 敏明

○8月9日(水)

「マーケティング・コミュニケーションによる需要創造、
現代会計の動向(広告と販売促進・簿記会計)」
三好 宏・川本 和則



本年度の講義風景(ビジネスアクティブラーニングルーム)

[教員のたまごのタマゴ] 教職課程を履修して

経営学部 経営学科 4年 壺内 知範

私は、2014年4月に岡山商科大学へ入学し、「商業」と「情報」の2種類の教員免許状を取得することを決意しました。教員免許状を取得するためには、大学を卒業するための単位を取得するだけでなく、別に教職の単位を取る必要があります。そのため、他の学生よりも多くの講義を履修することになります。

大学1年次生から3年次生までに、教職に関する知識と技術を身につけ、4年次生の6月頃になると、2週間、教育実習に行きます。教育実習では、高校生の反応を直に見ることができて、私の教え方の良い部分や改善しなければならない部分を次々に発見することができ、とてもいい勉強になりました。また、休み時間や放課後になると、たくさん生徒が私の所に来てくれて、色々な話をすることができました。

たった2週間の教育実習ですが、本当の先生になったような感覚になり、「教員」という仕事のやりがいとたくさん発見することができ、改めて「教員」になりたいという思いを再確認しました。

そして、教育実習が終わると、7月に岡山県の教員採用試験を受験しました。結果は、残念なものとなりましたが、教員採用試験の雰囲気や私に足りないものが何かを明確に知ることができたので、とても良い経験になりました。



勉強会風景(教職学習室)

来年こそは、教員採用試験で良い結果が出せるように、現在、「教員」を目指している人たちで勉強会を行っています。同じ志を持つ者同士、互いに切磋琢磨し、とても良い励みになっています。4月からは県立高校で常勤講師として頑張っていく予定です。

教員を目指している高校生の皆さん、もしくは、少しでも教員の仕事に興味がある皆さんは、是非、岡山商科大学へ進学して教員を目指してみてください。

海外との交流

海外の語学研修先として大連外国語大学など5ヶ国の大学へ留学することができます。現地でみっちり語学を学ぶとともに、現地を小旅行して肌でその国の文化に触れ、かつ制度的・恒久的な交流を行うことを通じて、国際感覚を磨くことを目的とします。

●ハンゲル研修について 経営学部商学科 2年 藤原 加奈



ハンゲル研修は六日間という短い間でしたが韓国語の学習だけでなく、人としても大きく成長できたように思えます。私が成長できたと実感した点は第一に言語、第二に思いやり、第三に自立心です。

まず、第一は言語です。私は一回生の時に韓国語の授業を受けていたので、基礎はできているつもりでしたが、現地で韓国語を聞いたとき、全く理解できませんでした。授業では、発音を中心に練習しました。その効果もあり、授業終了後は今までより韓国語を聞き取れるようになったと感じました。また、研修中は韓国語に多く触られたので、最終日にはメニューや看板等をスラスラ読めるようになりました。

次に、第二の思いやりについてです。私は、研修の中で、勉強面でも生活面でも困難なことが多くありました。しかし、その度に友達や、現地の学生スタッフに助けられ、人の思いやりを強く感じることができました。特に現地の学生スタッフは、困ったことがあると、いつも優しく接してくれました。このことから、私もその学生スタッフのように誰に対しても気遣いのできる人になりたいと思うようになりました。私は今まで人に対しあまり踏み込めないところがありましたが、今回、人の「思いやり」に多く触れたことで、人に対し積極的に踏み出すべきだと自分自身を見直すことができました。

最後に、第三の自立心についてです。私は、このハンゲル研修が初めて経験する海外でした。当初はそのことを不安に感じ、一度は参加を諦めてしまいましたが、このままでは消極的な自分を変えることはできないと思い、改めて参加を決意しました。この一歩を踏み出したことにより、一人で行動するという勇気をもつことができ、自分自身大きく成長できたのではないかと思います。また、研修が始まってからは、自分のことは自分でやらなければならないので、次にやるべきことを考えて行動できるようになりました。このように、この研修で新たにできるようになったことを継続させられるよう、日頃の生活から心がけ、他人任せで行動していた今までの自分の意識を変えていきたいと思います。

勉強面だけでなく、人として成長できた今回の経験を大切に、さらに自分をレベルアップさせられるよう、これからもより一層の努力をし、社会の一員として貢献できるような人になりたいと思います。

●中国語学研修について 法学部法学科 1年 猪熊 大河

今回の中国語学研修は中国の大きな街である瀋陽や、大連で過ごしました。気温は自分の身体にあって日本より過ごしやすい環境でした。物価の低さと味の良さに驚き、ほぼ毎日アイスやジュースを飲み、少し太ってしまいました。また日本に伝わっている中華料理とは全く異なり、本場の中華料理はどれも食べやすく、大変美味しかったです。日本では見られない料理が出るたびにどんな味なのか、どんな食感なのか毎食毎食楽しみになっていました。また、街に出てみると色々な人々がいました。街中で人々が掲げているプレートには力仕事や配水管同人誌等…とかかれており雇い主を探していました。このように貧富の差を間近で見て、最初に感じた事は人が多くなれば、その分賃金も安くなるんだということでした。また、テレビ番組においても生放送や海外ドラマを映さないということに驚きました。それは生放送では何が起るかわからないという事と、大勢の人々が見ているため下手なことをすると思想に悪影響を及ぼすためという理由からでした。海外ドラマについても中国独自の考え方が変わってしまうということで放送しないそうです。その点から、中国の自分達の文化に誇りを持ち、それを変えず残していこうとする気持ちは見えたと思います。こうした中国の考え方を私たち日本人がどう感じ取るかは自由ですが、私個人としてはとてもいい考え方だと思いました。今後の人生にもこうした経験が生かせるように努力していきたいです。



「第4回キッズビジネスパークin岡山」への参加

社会総合研究所 次長

経営学部商学科 准教授 海宝 賢一郎

公益社団法人岡山青年会議所主催の「第4回キッズビジネスパークin岡山～「だれかのために!」で広げるおかやま～」が、2017年9月2日にコンベックス岡山で開催されました。これは小学校3年生～6年生の児童を対象とした就業体験型イベントで、4回目を迎えた今回は参加児童1,000名と昨年の倍増となり、大規模なイベントとなりました。本学からは34名の学生がボランティアスタッフとして参加しました。

当イベントでは、警察・消防などの公的機関をはじめ、歯科医師・薬剤師・アナウンサー・大工・ネイリスト・警備員などの多種多様な職業が約60店舗出店する中、参加児童は、「希望した仕事を体験し、本イベント用に用意された通貨(ピーチ)で給与をもらい(1つの仕事で350ピーチが支払われる)、税金を納付した後に、その通貨を使って自由に買い物をする」といった流れで、1日に最大4つの仕事を体験できます。

当イベントを通じて、児童が興味のある仕事を体験して自分の将来を考えるきっかけになることはもちろんのことですが、「自身が働いてお金を稼ぎ、得たお金を使って買い物をする」といった、金融リテラシーの初等教育が行える貴重な機会でもあると考えております。

また、参加した本学の学生は、事前ミーティング、それぞれ担当する店舗での参加児童への指導と、店長としてリーダーシップを発揮して、児童が楽しく仕事ができる環境づくりに取り組んでいました。参加学生にとっても、大学の授業にはない貴重な経験を積むことができたものと思われま



事前ミーティングの様子



仕事に取り組む児童達の様子



共に盛り上げてくれた学生スタッフ

金融リテラシーとは?

Column

金融庁、消費者庁、文部科学省、金融関係団体(全国銀行協会、日本証券協会、日本損害保険協会、日本FP協会ほか)などで構成された金融経済教育推進会議が、年齢階層別に金融リテラシー(お金の知識・判断力)について金融リテラシー・マップを作成、小学生層からシニア層まで7段階に分類して、各段階で「生活スキル」として身に付ける必要がある内容を項目別に分類し、金融教育の推進目標を提示しています。

小学生には、家計管理・生活設計・金融知識などの項目について、小学生レベルでの「働いてお金を得ること、お金の計画的な使い方、貯蓄する習慣づけ」などが示されています。

竹灯籠づくり(真庭市社地区)

平成29年11月19日(日)に、包括協定を締結する真庭市の社(やしろ)地区で竹灯籠づくりに参加しました。

社地区には立派な竹が生えています。これを活用して竹灯籠をつくり、大晦日に、佐波良(さわら)神社・形部(かたべ)神社に参拝された方に喜んでいただくというものです。岡山商科大学からは、経営学部の学生2名、経済学部の学生1名が参加しました。

社コミュニティハウスには、社地区の皆様が続々と集まってきました。岡山県立大学の学生2名と商大生3名がそれぞれ到着しました。この日は、寒波が到来しており、11月にもかかわらず周囲の山頂は雪で白くなっています。時折、雪が舞うなどなかなかの冷え込みでした。

最初に、社地域振興協議会の樋口会長から、「怪我の無いよう、安全に作業して下さい」とご挨拶がありました。続いて、地域おこし協力隊の篠原さんから、作業の流れについて説明がありました。

まず、切り出した竹に岡山県立大学の学生がデザインした穴を空ける位置を示すシールを貼り付けます。シールには、12、8、4などの数字が書かれた○印があり、それぞれ、12mm、8mm、4mmのドリルビットを電動ドリルに取り付けて、穴を開けていきます。

シールを貼る位置がずれると、デザイン全体が崩れてしまうため、慎重に貼り付けていきます。振興協議会の狩谷さんらも学生の作業を見守っていただきました。

シールの貼り付けを終えると、電動ドリルで穴を開けていきます。穴そのものは簡単に空くのですが、とにかく空ける数が多く大変な作業でした。

社地区の皆さんと協力してどんどん穴を開けていきますが、同じ姿勢で開け続けていると身体の節々が痛くなってきます。また、ドリルの振動で腕がしびれてきます。

連続した作業に少し疲れた頃、休憩しましょう、とのお声がけがありました。お昼は、牧原集会所に場所を変えて、地域の皆さんに準備いただいたお昼ご飯をいただきます。おにぎりに、カボチャのサラダ。具だくさんのお汁で暖まります。地区の皆さんは「おかわりはいいませんか?」、と何度も声をかけて下さり、お腹いっぱいいただきました。

コミュニティハウスに戻る途中、竹灯籠を設置する予定の佐波良神社に立ち寄ります。神社にある千年杉は今秋訪れた台風により枝が折れてしまったそうです。地元の方に昔から親しまれていた木ただけに心が痛みます。

午後からは、地区の子ども達が合流し、小さい灯籠に色を付けていきます。色を付けた灯籠は、火を灯すとそれぞれの色に光り輝いて美しいものでした。

穴を開け終わった竹を3本組み合わせて、自立する竹灯籠が完成します。完成した灯籠を並べて、火を入れ、みんなで記念撮影を行いました。

12月31日、大晦日の午後10時から行われる「やしろ竹あかり」が本番です。社地区の皆さんと訪れた方の目を楽しませてくれたことでしょう。

竹灯籠づくりは、2017年12月10日(日)10時~15時に岡山市北区表町商店街で行われた、さとまちフェスタでも体験できるブースが出展されました。



おかやまテクノロジー展2018に出展して

2018.1.17-18

当展示会は1月17,18日の2日間実施され、172社・機関の参加があった中四国最大規模の技術展です。電気・電子機器、切削・研削、表面処理、IoTなどの技術が展示され、企業の経営者、技術者、コーディネータから展示技術へ熱い視線が飛び交っていました。また、社会見学の一貫と思われる高校生も多数参加しており、興味と興奮の渦巻く熱気あふれる空間でした。本会には、岡山大学を始めとする岡山県下の大学が参加。各大学のPR、相談を受け付けるブースが設けられました。当研究所からは、本学リサーチブランディング事業で開発中のスタンプラリーアプリや大学パンフレットを展示し、本学PRに努めました。出展の割合として、切削・研削、鋳造といった機械分野が最も多く、電気・電子、ICTという順のようでした。私の分野であるICT分野の出展は少ないことから、落ち葉も枯れ木の賑わいと、私の研究しているソリューションも並べられるようになれば、と想いを募らせました。

(経営学部 准教授 箕輪弘嗣)

時代の“潮流と深層”を読み解く。

慶應丸の内シティキャンパスの定例講演会

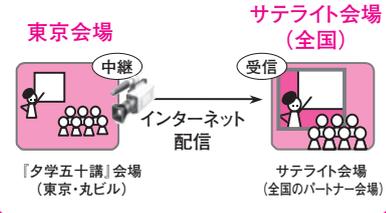
『夕学(せきがく)五十講』(東京・丸の内で開催)を インターネットで全国へ中継配信

「時代の“潮流と深層”を読み解く」をコンセプトに、各分野の第一線で活躍する研究者・経営者・文化人等を講師に招いて開催する講演会「夕学(せきがく)五十講」(主催:株式会社慶應学術事業会)を全国で見られるサービスです。最先端の動画データ圧縮技術と安定した配信技術により、高精度の画質と迫力ある音声で受講していただけます。

<2018年度前期の講演テーマ>



【受講イメージ】



2017年度前期配信講座一覧

聞き逃さない、見逃さない、全てが1回だけの講義。
岡山では岡山商科大学でしかご覧いただけません。
2018年度前期は以上の6テーマに基づき、15講演を放映します。

4月12日(木) <人間の力を信じる>

横田 南嶺 | 臨濟宗円覚寺派管長
「人生を照らす禅の言葉」

4月20日(金) <変革期の経営と働き方>

有沢 正人 | カゴメ(株) 執行役員CHO
「100年企業の人事大改革
～グローバル企業への飛躍に
必要な人事制度とは～」

4月25日(水) <この人に聞く>

内山 聖子 | テレビ朝日「ドクターX～外科医・大門未知子～」
シリーズ セネラルプロデューサー
「失敗しないドラマ創り」

4月26日(木) <この人に聞く>

羽生 善治 | 将棋棋士
阿刀田 高 | 作家
「AI時代の人間の行方」
※本講演は羽生氏の講演60分・対談60分(質疑応答15分含む)の構成です。

5月8日(火) <人間の力を信じる>

石川 善樹 | 予防医学研究者、
(株) Campus for H 共同創業者
「人生100年時代のセルフマネジメントとは何か?」

5月9日(水) <テクノロジーが変える社会システム>

落合 陽一 | 筑波大学准教授・学長補佐、
ピクシーダストテクノロジーズ(株) 代表取締役社長
「超AI時代の生き方・働き方・考え」

5月25日(金) <人間の力を信じる>

秋山 仁 | 東京理科大学 理数教育研究センター長・教授
「今日からあなたはMathe-magician」

5月31日(木) <変革期の経営と働き>

木村 尚敬 | (株) 経営共創基盤 (IGPI) パートナー、
IGPI上海執行董事
「これからのリーダーシップのあり方
～ダークサイド・スキルを身につけろ～」

6月6日(水) <人間の力を信じる>

茂木 健一郎 | 脳科学者、ソニーコンピュータサイエンス研究所
シニアリサーチャー
前野 隆司 | 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント
研究科 教授
「幸福学と脳科学の文脈で語り合う平成30年」
※本講演は対談を含む講演90分・質疑応答30分の構成です。

6月21日(木) <地球と人間の歴史>

飯間 浩明 | 国語辞典編纂者、「三省堂国語辞典」編集委員
「国語辞典から現代日本語が見えてくる」

6月29日(金) <「新しい経済」を考える>

西野 亮廣 | 芸人・絵本作家
「貯信時代のお金の作り方、使い方」

7月3日(火) <テクノロジーが変える社会システム>

琴坂 将広 | 慶應義塾大学総合政策学部 准教授
「テクノロジーが変えた経営戦略:
進化を振り返り、未来を考える」

7月6日(金) <「新しい経済」を考える>

白井 さゆり | 慶應義塾大学総合政策学部 教授
「東京五輪後の日本経済」

7月12日(木) <テクノロジーが変える社会システム>

スプツニ子! | アーティスト、東京大学特任准教授
「問いを立てるデザイン」

7月24日(火) <「新しい経済」を考える>

飯田 泰之 | 明治大学政治経済学部 准教授
「日本経済の近未来」

2018年2月19日現在の予定です。都合により変更となる場合があります。

2017年度 前期 サテライト配信講演実績

テーマ

人を活かす経営/心と体に向き合う/未来を創る技術と戦略/
世界の中の日本/この人に聞く

4月12日(水) <人を活かす経営>

株式会社吉野家ホールディングス 会長

安部 修仁 (あべ しゅうじ)

「吉野家の歴史から学ぶ

～変える勇気と守り抜く意思～」

4月19日(水) <人を活かす経営>

ロート製薬株式会社 代表取締役会長兼CEO

山田 邦雄 (やまだ くにお)

「真のダイバーシティに向けて」

4月25日(火) <人を活かす経営>

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任教授

高橋 俊介 (たかはし しゅんすけ)

「働き方改革とワークライフ」

5月10日(水) <人を活かす経営>

株式会社博報堂行動デザイン研究所 所長

國田 圭作 (くにた けいさく)

「行動 デザイン

～人を動かすマーケティングの新潮流～」

5月23日(火) <この人に聞く>

ピアニスト

仲道 郁代 (なかみち いくよ)

「ピアノの魅力、音楽の力、芸術の力」

5月25日(木) <心と体に向き合う>

臨済宗建長寺派 林香寺住職、精神科医

川野 泰周 (かわの たいしゅう)

「禅とマインドフルネス

～現代に求められる自己への気づき～」

6月1日(木) <未来を創る技術と戦略>

政策研究大学院大学 客員研究員(前ミクシィ代表取締役)

朝倉 祐介 (あさくら ゆうすけ)

「市場経済における会社と個人のあるべき姿」

6月9日(金) <世界の中の日本>

作家・元外交官

佐藤 優 (さとう まさる)

「世界 はどう変わるか」

6月21日(水) <世界の中の日本>

立正大学経済学部 教授、東京大学名誉教授

吉川 洋 (よしかわ ひろし)

「人口減少とビジネスチャンス」

6月23日(金) <世界の中の日本>

慶應義塾大学経済学部 教授

坂井 豊貴 (さかい とよたか)

「多数決 ではない決め方と、
多数決の正しい使い方」

6月29日(木) <未来を創る技術と戦略>

大阪大学大学院基礎工学研究科 教授

石黒 浩 (いしぐろ ひろし)

「アンドロイドと近未来社会」

7月19日(水) <人を活かす経営>

学習院大学経済学部経営学科 教授

守島 基博 (もりしま もとひろ)

「人視点からの人材マネジメント

～働く人を幸せにする企業が強くなる～」

7月21日(金) <未来を創る技術と戦略>

インテグラル株式会社 代表取締役パートナー、

スカイマーク株式会社 代表取締役会長、

一橋大学大学院国際企業戦略研究科 教授

佐山 展生 (さやま のぶお)

「新生スカイマークと企業再生」

7月26日(水) <未来を創る技術と戦略>

新政酒造株式会社 代表取締役社長

佐藤 祐輔 (さとう ゆうすけ)

「日本酒リノベーション」

7月27日(木) <この人に聞く>

フリーランスの眼科医

服部 匡志 (はっとり ただし)

「人間は、人を助けるようにできている」

2017年度 後期 サテライト配信講演実績

テーマ

戦略と技術が拓く近未来/人間の力を信じる経営/日本の近代
こころと身体に向き合う/この人に聞く

10月3日(火) <戦略と技術が拓く近未来>

株式会社エアウィーヴ 代表取締役会長兼社長

高岡 本州 (たかおか もとくに)

「エアウィーヴのブランドマーケティング:

世界の睡眠を快適にするエアウィーヴの挑戦」

10月6日(金) <人間の力を信じる経営>

株式会社電通 コピーライター・コンセプター

梅田 悟司 (うめだ さとし)

「思考を深め、言葉を磨く。」

10月11日(水) <戦略と技術が拓く近未来>

一橋大学大学院国際企業戦略研究科 准教授

藤川 佳則 (ふじかわ よしのり)

「価値づくりの未来: デジタルが破壊する経営論理」

10月24日(火) <日本の近代>

慶應義塾大学商学部 教授

菊澤 研宗 (きくざわ けんしゅう)

「日本軍の失敗に学ぶ『組織の不条理』」

10月31日(火) <人間の力を信じる経営>

落語家

金原亭 馬生 (きんげんてい ばしろう)

作家、慶應義塾大学文学部 教授

荻野 アンナ (おぎの あんな)

「落語家の子育て」

※本講演は対談と落語一席の講演90分と

質疑応答30分の構成です。

11月7日(火) <こころと身体に向き合う>

クリエイティブディレクター

佐々木 宏 (ささき ひろし)

「リオ開会式とCM四方山と

近頃ジャパンに、ひとこと。

キーワードは「どんちとセンス」

11月14日(火) <この人に聞く>

作家

浅田 次郎 (あさだ じろう)

「読むこと 書くこと 生きること」

11月21日(火) <人間の力を信じる経営>

レオス・キャピタルワークス株式会社

代表取締役社長・最高投資責任者

藤野 英人 (ふじの ひでと)

「投資の本質

～人の可能性に投資する～」

11月22日(水) <人間の力を信じる経営>

東京大学大学院総合教育研究センター 准教授

中原 淳 (なかはら じゅん)

為末 大 (ためすえ だい)

「仕事人生のリセットボタン:

長期労働時代をいかに完走するか?」

※本講演は対談を含む講演90分と質疑応答30分の

構成です。

※為末氏の肩書きは講師のご希望により肩書き無しと

いたします。

11月28日(火) <日本の近代>

法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授、

一橋大学イノベーション研究センター特任教授、

日本元氣塾塾長

米倉 誠一郎 (よねくら せいいちろう)

「イノベーターたちの日本史:

近代日本の創造的対応」

12月6日(水) <戦略と技術が拓く近未来>

株式会社ストライプインターナショナル 代表取締役社長兼CEO

石川 康晴 (いしかわ やすはる)

「ストライプインターナショナルのイノベーション」

12月15日(金) <人間の力を信じる経営>

株式会社日本レーザー 代表取締役社長

近藤 宣之 (こんどう のぶゆき)

「社員をことごとく大事にする経営

～黒字経営を継続するためのマネジメント～」

1月16日(火) <こころと身体に向き合う>

RIZAPグループ株式会社 代表取締役社長

瀬戸 健 (せと たけし)

「失敗力」

1月17日(水) <こころと身体に向き合う>

大阪大学大学院経済学研究科 教授

松村 真宏 (まつむら なおひろ)

「人を動かす『仕掛学』」

1月25日(木) <この人に聞く>

料理研究家

土井 善晴 (どい よしはる)

「和食を知らない日本人はいけないでしょ!」

商大講座のご案内

～出前講義：講師がお近くまで伺います！～

★お申し込みができるのは？

30名程度の聴講者が見込める、岡山県内の公共・一般団体や企業です。

★講座のプログラムは？

次ページをご参照ください。

1講座1時間から2時間(質疑応答含む)の構成になっております。プログラムに掲載のないテーマにも対応させていただきますのでご相談ください。

★費用は？

講師料は無料です。ただし、会場の手配・設営及び案内発送に係わる事務作業や費用は主催者側でお願いします。(※受講者から料金を徴収されている場合は、講師料が発生します。講師料は応相談。)

★申込手続は？

お電話、FAX、Eメールで下記までお問い合わせください。手続をさせていただきます。

★決定および通知

決定通知書を担当者あてに送付します。

★開講にあたっての注意

教員の都合等により、必ずしもご希望に添えないことがあります。

～お問合せ先～

岡山商科大学社会総合研究所
〒700-8601 岡山市北区津島京町2-10-1
TEL/FAX 086-256-6656[直通]
E-mail syaken@po.osu.ac.jp



2017年度実績

7/15(土) 岡山県瓦工事協同組合

「発想法ワークショップ」

三好 宏(経営学部 教授)
大東 正虎(経営学部 准教授)
大石 貴之(経営学部 講師)

10/28(土) 岡山商工会議所

「第8回 発想法ワークショップ」

三好 宏(経営学部 教授)
大東 正虎(経営学部 准教授)

9/15(金) 岡山市北ふれあいセンター

「岡山市 元気の出る会・

いしまハートの会特別編」

「地域と健康 ～日常生活における生活習慣病の予防～」

岩橋 邦彦(経営学部 名誉教授)

12/2(土) 岡山商工会議所

「事業者別発想法ワークショップ」

興和商事株式会社

「BMXの認知度を高める方法を考えよう」

三好 宏(経営学部 教授)
大東 正虎(経営学部 准教授)
大石 貴之(経営学部 講師)

10/8(日) 津山市生涯学習センター

「夏目漱石 生誕150年 記念講演」

「夏目漱石あれこれ」

越智 悦子(法学部 教授)

商大講座のご案内

～出前講義：講師がお近くまで伺います！～

2017年度 『商大講座』 メニュー 一覧

	テ ー マ	所属学部等	講師氏名	担当講義・専門分野
教 養	夏目漱石 非帰結主義の新たな展開 ー厚生経済学の一側面ー	法学部教授 法学部教授	越智 悦子 九鬼 一人	近代日本文学 哲学 論理学 倫理学
	・健康管理とセルフ・コントロール ・日常生活における生活習慣病の予防 戦後ドイツにおける「過去の克服」	経営学部教授 経営学部准教授	岩橋 邦彦 香月 恵里	健康教育 運動生理学 ドイツ語 ドイツ文学
	・シェイクスピアと言葉 ・シェイクスピア劇におけるよりよい生き方	経営学部准教授	松浦 美佐子	英語学 英文学
	・考古学豆知識 ・吉備の考古学 ー地域創生のための歴史・文化資源の活用ー ・企業における社会貢献 ーメディアとしての博物館利用ー	経営学部 特任教授	柳瀬 昭彦	考古学 博物館学
	生命倫理と法 ・消費生活と契約 ・法教育、主権者教育、市民教育 ・裁判員制度の現状 ・現在の「治安」について ・少年非行への対応とその課題 国際裁判による紛争の平和的解決	法学部教授 法学部講師 法学部准教授 法学部准教授	栗屋 剛 倉持 弘 白井 諭 砂川 和泉	医療と法 民法 法学教育 刑事訴訟法 刑事政策 国際法
中国経済の構造転換 金融危機における日米欧の金融政策	経済学部教授 経済学部准教授	田中 勝次 山根 智沙子	国際金融論 金融政策 金融工学入門	
経 営 ・ 商 学	地域社会の近代化と産業遺産ー瀬戸内を中心にしてー	経営学部教授	天野 雅敏	商業史 日本経済史
	中国企業の現状と課題	経営学部准教授	于 琳	国際経営論 経営管理論
	・大学との連携について、高大連携について ・サービス系主として事務作業の生産性向上 ・製造業における生産性について ・どうなる、日本企業 ・これから求められる経営者・リーダー ・企業とマスコミー評判はいかに形成されるかー	経営学部教授 経営学部教授	大崎 紘一 長田 貴仁	経営工学 経営者論、経営戦略、 経営組織、リーダーシップ論、 現代ビジネス事業、人的資源管理、 ビジネス・ジャーナリズム
	・地域商業の活性 ・デザイン思考の経営戦略 ・リタイアメントプランニングの基礎 ・財産管理の基礎知識 ・電子商取引の現在 ・電子マネーの現在	経営学部教授 経営学部准教授 経営学部教授	岡本輝代志 海宝賢一郎 蒲 和重	商業学 ビジネスデザイン論 FPリスク・リタイアメントプランニング 不動産運用設計論 流通システム論 FP概論
	日本のスタートアップ企業 ・農と食による地域づくり 一人が地域で安心して暮らすためにー 世界と日本の農と食を取り巻く環境 ・地域資源を眠らせない6次産業化 ・若者よ地域社会に飛び込め ・教育工学とICTの利用 ・科学・ものづくり教育	経営学部講師 経営学部教授 経営学部教授	川合 一央 岸田 芳朗 小松原 実	経営史 地域づくり 世界と日本における農と食について 情報技術論 マルチメディア表現・技術
	・企業と情報 ・インターネットと地域社会 ・充実したライフデザインと キャリアプランナリオの描き方 ・ファイナンシャルプランニングの基礎知識 財産戦略	経営学部准教授 経営学部教授	大東 正虎 高林 宏一	経営情報 情報管理 ファイナンシャルプランニング
	おかやま地域の産業・商業振興	経営学部教授	田中 潔	マーケティング 社会調査
	・マーケティング戦略 ・観光・まちづくりのマーケティング 情報化社会における脅威と身の守り方	経営学部教授 経営学部准教授	三好 宏 箕輪 弘嗣	マーケティング入門 地域マーケティング メディア情報学 情報ネットワーク論
	発想法ワークショップ (はっ! そう?! ほへ。ワークショップ)	経営学部教授	三好 宏	マーケティング入門 地域マーケティング
	御社が抱えている個別の課題をテーマとし、 新たな気づきや視点の発見など、課題解決の 「糸口」を一緒に考えます。 例えば「新サービスでお客さまを増やしたいけど アイデアがない」「店舗の雰囲気についてお客様 のご意見を聞いてみたい」など、岡山商科大学の 学生と教員が御社のためのワークショップをいた します。※費用：5万円（応相談）	法学部 経済学部 経営学部	本学学生	



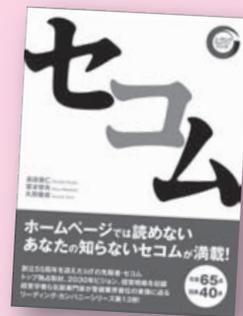
著書紹介

『セコム』

長田貴仁、宮本惇夫、久野康成 共著 出版文化社(2017年)

経営学部経営学科 教授 長田 貴仁

「共著」の定義とはいったい何なのか。極端なことを言えば一冊の書籍を100人で書いても、2、3人で書いても共著である。「共著」と自己申告していても数ページしか書いておらず、その本の表紙に名前も載っていない「脇役」的筆者もめずらしくない。本書で果たした筆者の役割は、「脇役」ではなく出番が極めて多い「主役」である。社長インタビュー、経営戦略、人的資源管理、国際経営など、セコムの経営に関する主要なテーマについてはすべて筆者が、経営学の理論を巧みに織り込みながら、「読み易い」文章で表現している。



そもそも同書は、セコム創立50周年に当たる2012年に単著として上梓した『セコム その経営の神髄』(ダイヤモンド社)を読んだ知らない編集者から、突然、「セコムも長田さんなら取材に全面的に協力する、と言っています。是非とも執筆して欲しい」とのメールが届いた。不本意ながら単著企画ではなかったが、セコム経営陣と対話でき、多くの知見を得た。結果的に、好調なトヨタ自動車も足元に及ばない高い利益率を誇り、さらに最高益を更新しているセコムを俯瞰するには便利な本に仕上がった。

経営戦略論、経営組織論、経営管理論、企業統治、経営者論などを専門にしていると言いながら、著名な創業者、社長と付き合い合ったこともない経営学者が何と多いことか。伊丹敬之・国際大学学長(一橋大学名誉教授)は、加護野忠男・甲南大学特別客員教授(神戸大学名誉教授)との対談(組織学科)で、次のように述べている。

「経営学の研究者は、研究者を納得させるだけでなく、経営者も納得させなくてはならない。ここが他の学問と大きく異なる点だ」

本書の最大の狙いはここにある。中山泰男社長から本書を絶賛され、経営について意見も求められた。どうやら、筆者は経営者を納得させることができたようだ。

目次

- 第1章 トップが語るセコムグループ 代表取締役社長 中山 泰男
- 第2章 セコムグループと業界の歴史
- 第3章 社会システム産業と七事業戦略
- 第4章 セコムグループの研究開発戦略
- 第5章 セコムグループの国際戦略
- 第6章 セコムの人材戦略とCSR・環境戦略
- 第7章 セコムグループの経営分析
- 第8章 セコムグループ企業紹介
- 第9章 使える企業情報源

「経済学科金融コースの開設」

経済学部長 田中 勝次

これまで経済学部では、全国第1位の大学院進学率(朝日新聞社『大学ランキング』)を4年連続で達成するなど、アドバンストクラスの「特別演習」という教育プログラムに力を入れ充実させてきました。2018年度から新設される金融コースは、これまでの「金融就職対策講座」を公務員・大学院進学を対象としたアドバンストクラスにおける「特別演習」と同じように、金融のスペシャリストを育成する教育プログラムとして大幅に改編いたしました。

金融コースは、経済理論を理解し、金融分野で活躍できる人材を養成することを目標としています。金融コースで期待される学習成果としては、金融に関する知識や情報を正しく理解し、自らが主体的に判断することができる能力や社会人として経済的に自立し良い暮らしを送っていくための生活スキル(金融リテラシー)を身に付けることです。

少子高齢化の進展は賦課方式による年金制度だけに頼ることができなくなってきました。1970年では現役世代9.8人で引退した世代1人を支えていましたが、2025年には現役世代1.9人で引退した世代1人を支えなければならなくなっています。また、ゆとりある老後生活費は月額36万円に対して標準的な年金額(厚生年金)は月額23万円であり13万円の不足額が生じています。この意味において、自助努力の重要性が高まっているといえます。まとまったお金を一気に投じるのではなく、貯める手段として投資を行う必要があります。



金融コースでは、金融機関関連諸団体からの外部派遣講師などによる授業科目「金融リテラシー講座」と「金融リテラシー講座・資産運用編」を新規に開講すると共に、問題発見能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力、デベート能力を育成すべくグループ学習によるアクティブラーニング型教育を行うと同時に、実務に携わる外部講師を招いたゲストスピーカーによる業界研究あるいは業界の最新の動向などを学ぶ2

年次後期の「金融特別演習I」と3年次前期の「金融特別演習II」を開講します。さらに、金融コース専用の「インターンシップ」を設けており、また、「証券アナリスト3級」の資格試験に関する受験対策も準備しています。さらに、金融コースの学生には、金融の基礎から実践的な学びまで金融に特化した特別プログラムである全学共通の学科横断的な「金融総合教育プログラム」への履修も推奨しています。

金融コース新設に向けて、初年次教育の充実も図っています。初年次教育のコアは「教養演習」ですが、多様な学生の多様なニーズに対応すべく少人数による能力別の授業科目として1年次前期に「数学演習」と1年次後期に「経済学演習」を必修科目とし、「教養演習」を補強しています。また、入学式後の直近の土日を利用して新入生宿泊研修を行い、学習指導・生活指導に加えて、自己紹介コーナーやポスターセッションなどのグループ学習とプレゼン発表を通して高校と大学における授業の橋渡しを行う場を設けています。

金融コースは、少子高齢化と社会保障システムの揺らぎの中で自助努力の重要性が高まっていることから金融教育の必要性、高校生の就職希望先としての公務員と銀行に対する人気(2016年及び2017年2月14日に開催されたバレンタイン・オープンキャンパスにおけるアンケート調査結果)という高校生のニーズ、そして地域で貢献できる金融リテラシーを身に付けた人材の輩出(金融コース専用のインターンシップ受け入れ)という産業界からの要望などを踏まえて新設されています。

意欲的で積極的な学生が金融コースの門を叩き、その夢を叶えてください。私たちは、そのような貴方たちを応援いたします。

岡山経営者論

岡山経営者論

(一社)岡山経済同友会 ボランティアプロフェッサー 講義

(一社)岡山経済同友会とタイアップした 「経営人材育成プログラム」

本講義は、(一社)岡山経済同友会のご協力のもとに、日本の将来を担う本学学生に、「企業経営」をテーマにして、各社の未来への想い、想いを実現させる企業活動について、講義をしていただく、ボランティアプロフェッサー・オープンカンパニーとして1996年から実施されており、2018年度で23年目を迎えます。2015年度からは、これまで「経営学特殊講義」としていた科目名を、「岡山経営者論」と改め、経営者の想いを伝えて頂く講義としています。

2014年4月から開始したアクティブラーニング形式の講義では、1回目をご講義で各社の内容(例えば社是・社訓、経営理念、経営活動等)についてご講義を頂いています。2回目は、講義の最初又はあらかじめ与えられたテーマ(各社に関する事、社会状況に関する事など)について、10~15人のグループで議論、まとめ、発表、講師の講評をいただく形式で講義を実施して頂いています。

社会科学系の社会人として必要な学力の3要素{(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力)、(主体性を持って協働して学ぶ態度)}を修得させるために、新しい形式での講義となっています。

最近、企業では、若者の商品に対する嗜好傾向の意見を集めるために、学生の参画による商品開発、マーケティングを実施されるケースが見られるようになりました。第2回目の講義は、各社の課題解決の一部としてご参考にしていただいています。

<2016~2017年度の登壇者一覧>

2016年度【前期】岡山経営者論

各社における経営(アクティブラーニング形式による)

「(株)デンシヨクにおける経営」 (株)デンシヨク 取締役副社長	野田 令 様	「サントリーの角ハイボール戦略」 サントリー酒類(株)岡山支店 支店長	村田良成 様
「中国電力(株)における経営」 中国電力(株)岡山支社 執行役員支社長	佐藤幸次 様	「幸福な社会人生活を送る為 能力・感性を高めて成長しよう!!」 ライト電業(株) 代表取締役社長	岡本典久 様
「たった1つの製品で世界に勝負する」 (株)オーエム・エックス 代表取締役社長	高畑宗明 様	「ヤンマー農機製造(株)における経営」 ヤンマー農機製造(株) 代表取締役社長	池内 導 様

2016年度【後期】岡山経営者論

各社における経営(アクティブラーニング形式による)

「(株)アイスラインにおける経営」 (株)アイスライン 代表取締役会長	石井秀明 様	「コミュニティ放送 諏訪大社 御柱祭への取組」 (株)倉敷ケーブルテレビ 代表取締役社長	坂本万明 様
「木下サーカス(株)における経営」 木下サーカス(株) 代表取締役社長	木下唯志 様	「(株)丸五における経営」 (株)丸五 代表取締役社長	藤木茂彦 様
「(公財)岡山県農林漁業 担い手育成財団における経営」 (公財)岡山県農林漁業担い手育成財団 本部長 事務局長	増本信行 様 黒住繁久 様	「岡山エフエム放送株式会社における経営」 岡山エフエム放送株式会社 代表取締役社長 DJ	石井正人 様 牛嶋俊明 様

2017年度【前期】岡山経営者論

「金融各社における経営」(通常形式とアクティブラーニング形式)

「"Ask not what your country can do for you, Ask what you can do for your country"」 日本銀行岡山支店 岡山支店長	福地慶太 様	「私の信用金庫経営」 おかやま信用金庫 理事長	桑田真治 様
「地域活性化論「地域活性化」の意味とその変遷」 (株)日本政策投資銀行岡山事務所 事務所長	高橋淳悦 様	「商工中金の概要」 (株)商工組合中央金庫岡山支店 支店長	釘崎信行 様
「銀行業務の基本」 (株)三菱東京UFJ銀行岡山支社 支社長	松井 豊 様	「中国銀行の経営戦略」 (株)中国銀行 代表取締役頭取	宮長雅人 様

2017年度【後期】岡山経営者論

「金融各社における経営」(通常形式とアクティブラーニング形式)

「金融とは」 SMBCE日興証券(株)岡山支店 支店長	木下正直 様	「これから始まる個人型DC」 大和証券(株)岡山支店 支店長	竹内竜也 様
「三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)における経営」 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)岡山支店 支店長	鈴木敏文 様	「ライフプランと資産形成」 みずほ証券(株)岡山支店 支店長	飯塚正也 様
「金融ビジネスの最前線」 野村証券(株)岡山支店 支店長	西迫久志 様	「最前線から語る証券ビジネス」 東海東京証券(株)岡山支店 支店長	浜田周作 様

「学ぶ心・礼節の本源」

経営学部商学科 講師 ソ ユンゾン

観光振興論特殊講義では、観光関連産業の第一線で活躍中の方々に講師にお迎えし、オムニバス形式で講義を行っている。受講生は、講師の方々の経験談も交えた講義から、観光産業について提起される課題を検討し、解決策について学び、観光に対する理解を深めていく。その中で、受講生が観光関連産業に対する心構えと熱意を育み、将来、観光振興を推進できる人材となることを目標としている。

2017年度は、「閑谷学校350年の歴史と変遷」のテーマで「公益財団法人特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会」の國友道一氏に講義していただいた。300年以上の儒教教育の伝統を守り続けてきた旧閑谷学校は2015年4月24日に認定された日本遺産第一号である。日本遺産は日本の文化や伝統を語るストーリーを認定するもので、ストーリーを語る上で欠かせない地域の歴史的の魅力や特色が溢れる有形や無形の様々な文化財を地域が主体となって総合的に整備・活用するものである。更に日本だけではなく海外へも発信していくことで、地域の活性化を図ることを目的としている。岡山藩主池田光政が創建した日本最古の庶民教育のための学校とも呼べる旧閑谷学校は、江戸時代前期の建物と配置がほぼそのままの形で残る稀有な文化遺産である。日本の学校建築の出発点に位置し、現存最古の代表例と言える旧閑谷学校の教育理念や歴史と変遷の話から、学生は地元こんな素晴らしい文化遺産があること、孔子の言葉のように「学ばばすなわち固ならず」を実感したに違いない。

今回の講義では、國友氏は一見難しそうな歴史や文化財といったテーマを分かりやすく説明してくださった。学ぶことで、観光だけでなく文化、歴史、建築、教育などいろいろな分野についての視野が広がる楽しい90分であった。



2017年度「観光振興論特殊講義」外部講師登壇プログラム

講師名	テーマ
NPO法人 タブララサ 理事長 河上 直美 氏 理事 利根 弥生 氏	タブララサ流観光素材の作り方
岡山市産業観光局観光コンベンション推進課 課長 芳原 保 氏	岡山市の観光コンベンション施策について
協同組合 岡山情報文化研究所 専務理事 伊藤 博則 氏	『フルーツパフェの街おかやま』に見る 地域ブランディング
株式会社リョービツアーズ 専務取締役 小童谷 靖則 氏 ペンションくろしお丸 オーナー 牛窓町観光協会 副会長 永田 昭二 氏	インバウンド市場における両備グループの取り組み 遊びゴコロをもって観光の視点を変えてみる
ANAクラウンプラザホテル岡山 総支配人 柴田 公房 氏 日生カキオコまちづくりの会 会長 江端 恭臣 氏	ホテル産業概論 楽しみながらまちづくり
公益社団法人 おかやま観光コンベンション協会 専務理事 西 正尚 氏	走る阿呆たちが「徳島」に新しい風を吹かせた! (「とくしまマラソン」実施までの物語)
公益財団法人 特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会 事務局長 國友 道一 氏	閑谷学校350年の歴史と変遷
株式会社JTB中国四国 岡山支店 執行役員・支店長 上田 英夫 氏	JTBにおけるスポーツ観光ビジネスの可能性について
株式会社レイション プランナー 前田 優 氏	未来の観光を創る - Learning Journey JAPAN -
公益社団法人 岡山県観光連盟 専務理事 中田 哲 氏	岡山県の観光の現状と取り組み

2017年度

岡山商科大学孔子学院設立十周年記念式 及び伝統芸術鑑賞会

孔子学院は、中国語教育の普及と中国文化に対する世界各国の理解促進を目的として2004年より中国政府が行っている国家プロジェクトで、中国側協定大学と現地大学などが共同運営する形で中国語の教育や文化の発信に取り込んでいます。2017年12月現在、既に世界146カ国(地域)525の孔子学院及び1113の中小学校孔子学堂が設置されています。

岡山商科大学孔子学院は2007年6月12日に設置が認可され、同年11月25日に中国側協定大学である大連外国語大学と業務提携協定調印式並びに開設式が執り行われました。日本中四国地域の初めての孔子学院となりました。

今年設置10周年にあたり、11月18日に岡山シンフォニーホールにて、岡山商科大学孔子学院設立十周年記念式及び伝統芸術鑑賞会が開催されました。

中華人民共和国駐日本国大使館胡志平公使参事官、大森雅夫岡山市長、岡山県日中友好協会景山貢明会長、岡山県日中懇話会黒瀬定生会長、日本の他の大学の孔子学院及び孔子課堂の代表の方をはじめ、孔子学院の受講生、岡山の中国語愛好家、一般市民の方々にお越しいただきました。

岡山商科大学孔子学院理事長井尻昭夫が開会挨拶をしました。孔子学院の設立の趣旨及び十年間の歩みを振り返り、関係者の方々に感謝の意を表しました。中華人民共和国駐日本国大使館胡志平公使参事官が挨拶では、岡山商科大学孔子学院がこの十年



岡山商科大学井尻学長よりのご挨拶



中華人民共和国駐日本国大使館
公使参事官胡志平氏よりのご挨拶



岡山市長大森雅夫氏よりのご挨拶

間の業績について、特に中国語教育及び中国文化の伝達において果たした役割と、中日友好のための努力を高く評価しました。そして、岡山商科大学孔子学院の今後の更なるご発展を祈念し、祝賀の印とする記念品を贈呈しました。岡山市長大森雅夫様からもご祝辞をいただきました。



中国駐日本大使館より記念品贈呈



岡山商科大学孔子学院蒲学院長よりのご挨拶

孔子学院本部・中国国家漢弁副主任馬箭飛氏及び中国側協定校の大連外国語大学学長劉宏氏、岡山商科大学孔子学院副理事長孫玉華氏から祝電をいただきました。

岡山商科大学孔子学院設立十周年を祝うために、大連外国語大学からの大学芸術団の記念公演が行われました。古箏、二胡、笛などの民族楽器の演奏をはじめ、民族舞踊の披露もありました。心ゆく美しいメロディーを楽しみ、華やかな中国民族舞踊を鑑賞し、より多角的に中国文化に触れ、中国理解を深めるチャンスともなりました。

岡山商科大学孔子学院の十周年記念行事は、中国伝統芸術鑑賞会の円満開催とともに幕がおりましたが、孔子学院の歩みは、新たな十周年へと進もうとしています。今後とも引き続き中国語教育、中国文化の紹介と中日交流に関する事業を行い、地域貢献、国際相互理解に寄与することを目的とし、地道な努力を積み重ね、草の根レベルで中日友好交流を続けていきます。



楽器合奏



中国舞踊



2017年度の商大塾を振り返り

社会総合研究所 次長
経営学部商学科 准教授 海宝 賢一郎

6年目を迎えた「商大塾」は、資格に関する相談の場として定着してきており、国家資格の合格者も安定的に輩出されるようになってきました。

◆2017年度は前年よりも合格率が上昇

2017年度は、前年度よりも全体的に合格率が高くなりました。これは、合格するために努力を惜しまない学生が増えたこと、少数精鋭になったことなどが要因として考えられます。

◆2017年度 資格試験受験状況（合格率の高い順）

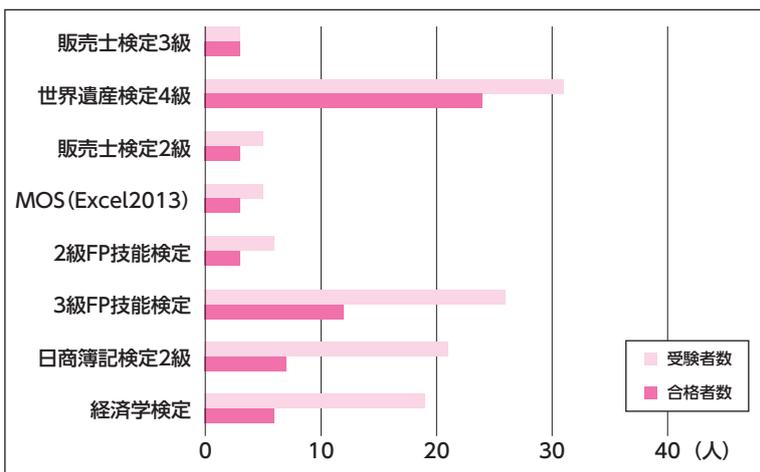
リテールマーケティング（販売士）検定3級（合格率100%）、2級（合格率60%）は、商学科内で試験対策の勉強会を毎週実施した成果がそのまま結果に表れたものと思われます。

世界遺産検定は、関連の授業を通じて学習した「成果」を確認するために、3級合格を目指してきましたが、今年は基礎知識の確認として4級受験に切り替えたことで、合格率77.4%という結果につながりました。

2級FP技能士（合格率50%）、3級FP技能士（合格率46.2%）は、FPコース生を中心とした特別勉強会への参加者が合格したことで合格率を押し上げています。

日商簿記検定2級（合格率33.3%）は、検定試験の難易度が増したにも関わらず、独学で学習を進めた学生が合格しています。

経済学検定（Sランク、A+、Aランク）は、本年度も大学院進学希望者が多く受験し、昨年同様に上位成績取得率30%台と良い成績を残しています。



◆ダブルスクールで国家資格合格を目指す

国家資格については、提携先の学外講座（資格の専門学校での通学講座）を受講するダブルスクール化を推奨しています。受験指導を専門とするプロの講義を受講することで、時間・学習内容等の効率化が図られ、合格への近道と捉えています。

税理士試験においても、昨年に引き続きダブルスクールによる科目合格者が誕生しました。

◆資格取得に向けた相談

日商簿記検定、FP技能検定、リテールマーケティング（販売士）検定に関する相談は例年同様に多く、将来に向けて技能を身につけたいと考える学生が増えていることが実感できます。また、宅地建物取引士をはじめ、税理士や公認会計士、行政書士といった国家資格取得に向けた個別相談も安定的に増えており、個々に効率的な学習方法をアドバイスしています。

ちょっと振り返り Report

～過去からの合格者の累計～

2級FP技能士	55名	(2008年度～2017年度)
3級FP技能士	170名	()
AFP認定者	38名	(2010年度～2017年度)
日商簿記2級	27名	(2011年度～2017年度)
日商簿記3級	63名	()
販売士2級	13名	(2012年度～2017年度)
販売士3級	26名	()

※AFP認定者は日本FP協会会員として登録

▼資格試験講座

本学は、実践的能力の取得や社会人としての教養を身につけ、早期から社会人となるための意識を高めるよう学生を指導しています。

そうした中で、国家資格や検定試験へのチャレンジを学生に促し、積極的に受験できるよう「岡山商科大学専門学校」ならびに「学校法人産業能率大学」と連携して、資格試験講座・通信教育講座等を実施しています。

また、国家資格試験等に合格した場合、お祝い金を支給する「岡山商科大学資格取得支援制度」を設けています。

本年度も多数の皆さんが、国家資格試験・公務員試験・検定試験に合格されました。

公務員試験合格者

○国家公務員

自衛官(一般曹候補生) 1名

※任期付・補欠の採用も含む。

○地方公務員

警察官 6名 [岡山県 5 島根県 1]

江津邑智消防組合 1名

資格試験合格者(2017年度)

○税理士試験(簿記論) 2名

○ (財務諸表論) 2名

○AFP認定者

(アフェリエイトド ファイナンシャル プランナー)

1名

○FP技能検定

2級 4名

3級 13名

○日商簿記検定

2級 6名

3級 8名

○リテールマーケティング(販売士)検定

2級 3名

3級 3名

○経済学検定(ミクロ・マクロ)2科目

Sランク 3名

Aランク 4名

○TOEIC(500点以上) 7名

○MOS(マイクロソフト オフィス スペシャリスト)

試験Excel2013 3名

○世界遺産検定

4級 24名

(注)岡山商科大学資格取得支援制度の詳細については社会総合研究所までお問い合わせください。

資格試験講座一覧

日商簿記検定(3級)講座

日商簿記検定(2級)講座

リテールマーケティング(販売士)検定3級講座

リテールマーケティング(販売士)検定2級講座

宅地建物取引士本科講座(通学)

宅地建物取引士web講座(e-ラーニング)

行政書士試験講座(初級コース)

行政書士試験講座(上級コース)

MOS対策講座

(Word,Excel,Power point,Access)

基礎学力養成講座(数学・国語)

独学サポート(オリジナルの試験対策問題・解説配付)

リテールマーケティング(販売士) 検定3級

合格者の声

祝 税理士科目 2科目 合格

経営学部商学科4年 倉増 泰佑

私は高校の時から簿記について学習していたため、将来は会計に関わる仕事に就きたいと思いました。会計のなかでも最難関と呼ばれる試験にチャレンジしたいと考え、国家資格である税理士試験に挑むことを決意しました。

税理士試験は、10人受験して1人だけが合格するような極めて難しい試験です。そのため、試験を受けるまでの勉強に相当な時間とお金を注ぎました。特に勉強するうえで気をつけたことは、環境です。当初は自宅で勉強をしていましたが、テレビやスマホの誘惑が多く、なかなか勉強に集中できず困っていました。そこで、大学の図書館あるいは専門学校の自習室を活用して、学習する環境を変えました。身近にテキストと文房具以外の余計なものがなく、誰にも邪魔されません。こうした勉強せざるを得ない状況を作ることで自分を追い込み、集中力を高めました。また勉強を通じて、同じ目標を掲げた受験仲間ができました。お互い試験で分からないことがあれば教えあい、励ましあうことでモチベーションも高めてきました。このように環境を変えたことにより、最高のパフォーマンスで試験に臨むことができました。その結果、念願の2科目の合格を勝ち取りました。

最後に、学生の皆さんへメッセージです。私は残り3科目の試験について、これからは社会人として仕事と勉強の二足のワラジで挑まなくてはなりません。しかし、学生は社会人よりはるかに自由な時間があるかと思えます。ぜひ、限りある学生生活のなかで、様々なことにチャレンジしてください。もし、税理士のような難しい資格を目指すのであれば、専門学校に通い始めるなど今ある環境を変えることをオススメします。

経営学部経営学科3年 木山 峻祐

私は以前から税理士になりたいという夢があり、専門学校に通い税理士試験の勉強をしてきました。税理士なるため、実際に行動を起こしたのは、大学2年生の6月でした。独学で勉強することはあまりにも無謀であるため、大学と並行して専門学校で勉強することにしました。大学の講義がない時間は専門学校で勉強をしていました。

税理士試験の科目には、大きく分けて、会計科目と税法科目があります。今回私は会計科目の簿記論と財務諸表論を受験しました。主に計算問題がメインになりますが、財務諸表論では理論問題もあります。計算問題では、問題の量が多いため、制限時間という限られた中でいかに早く、効率よく解けるかがカギになります。そのため、問題を何度も繰り返し解きその力をつけていきました。理論問題では、条文の暗記が必須です。すぐに覚えることはできないため、常にテキストを持ち歩き電車のなかなど、ちょっとした空き時間も利用して繰り返し暗記を続けました。

税理士試験に限らず、目標を達成するには日々の積み重ねが大事だと私は思っています。毎日勉強をコツコツと続けていくことが少しずつ確実に自分の力になっていきます。また、環境も大切で、専門学校の自習室ではそれぞれ資格の勉強をしている人たちがいます。そこで勉強することで刺激を受け、より一層集中することができました。

現在は、次の税法科目を勉強しています。やはり日々の積み重ねしかありません。税理士を目指している人がいれば一緒に頑張らしましょう。



写真左から倉増さん、木山さん

祝 岡山県警察本部合格

法学部法学科4年 野間 康平

私は、以前から警察官になりたいと思いこの岡山商科大学法学部に進学をしました。なぜ法学部を選んだのかというと警察官は憲法や刑法、民法などの様々な法律を必要とする職業なので先に学んでおくために法学部を選びました。大学の講義内容は警察官に関連がありそうな教科や公務員試験に役立つような教科を中心に取りました。また法学部



でしかとれない教科や公務員試験に向けての対策や今後日常生活で知っておいたほうが良いであろう科目を普段から学習ができたのはとても良かったと思います。

岡山商科大学では公務員を目指している人を対象にした特別講義として東京アカデミーの方が講義をしてくださる公務員講座を受講することができます。私は2回生の頃からその講座を受講してきました。講座の内容を教科書やノートに書き写し、そのあとその日に進めた分をその日に復習するようにしていました。3回生からは一度学習している内容がほとんどなのでなるべく自分の力で問題を解くように努力し分らなければ先生に質問をするようにし自分の分かっていないところや苦手な克服を中心に取り組みました。

警察官の一次試験では教養試験、小論文、体力試験、適性検査の4つがあります。どれも簡単ではありませんがしっかりと前準備をしておけば4つとも大丈夫です。二次試験では集団面接、個別面接があります。私は他の一般の企業の面接も色々受けましたが、あまり比べても違いはありませんでした。そのため、企業の面接を受けてみるのもいい練習になると思います。

公務員試験は範囲が広くなかなか大変だとは思いますが、まずは一次試験を突破することを目指して頑張ってください。

祝 ERE (経済学検定) ミクロ・マクロSランク合格

2017年7月2日、12月3日に行われた経済学検定試験において、経済学部経済学科4年の袁 碩さん、朱 宇婷さん、3年の劉 冠宇さんの3名がランクSの成績を収めました。ランクSはわずか成績上位1%にしか与えられない、非常に優秀な成績です。

「後援会及び後援会役員会について」

社会総合研究所では、後援会を組織しています。県内外を問わず多くの個人・団体の方にご登録をいただき、会員の皆様には、各種公開事業にご参加いただくと共に、刊行資料の配布をしています。そうした活動を通じて、寄せられたご意見、ご感想は社会的な要請とも受け止め、展開する事業へ反映させています。

そうした私共を支えていただいている後援会会員の中から一部の方に、中長期的かつ戦略的なご意見をいただくために、役員としてご就任いただいています。2018年2月27日にはご意見をいただく場として「2017年度後援会理事・幹事合同役員会」を開催いたしました。

産業界などで活躍されている方々からのご意見は多くのご示唆を含んでおり、これからの活動指針を定めていく上で、大変貴重な道標を示していただきました。

今後、こうしたご意見を無駄にすることなく、地域発展のため鋭意取り組んでいきたいと思っております。

岡山商科大学社会総合研究所後援会役員名簿 (2018年3月) (敬称略)

代表理事	岡崎 彬	岡山ガス株式会社	代表取締役社長
理事	宮長 雅人	株式会社中国銀行	代表取締役頭取
理事	桑田 茂	山陽放送株式会社	代表取締役社長
理事	小嶋 光信	両備ホールディングス株式会社	代表取締役会長兼CEO
理事	秋山 進彦	倉敷化工株式会社	相談役
理事	江國 成基	株式会社天満屋	代表取締役社長
代表幹事	武田 修一	株式会社廣榮堂	取締役会長
幹事	服部 弘平	服部興業株式会社	取締役会長
幹事	木谷 忠義	株式会社さえら	代表取締役会長
幹事	近藤弦之介	太陽綜合法律事務所	代表弁護士
幹事	松本 光雄	株式会社まつもとコーポレーション	代表取締役会長
幹事	永山 久人	下津井電鉄株式会社	代表取締役社長



(2018年2月27日 於:岡山プラザホテル)

所長挨拶

おわりに

社会総合研究所 所長 大崎 紘一



2017年度は、本学にとって特筆すべきことが多々ありました。その第1は文部科学省の主として大学教育活動の成果として申請した「私立大学等改革総合支援事業」の4タイプに採択されたこと、岡山県内8市町村と包括連携協定を締結し、地域の問題に取り組んだ教育研究活動の成果を大学全体としての研究ブランディング構築として申請した「私立大学研究ブランディング事業」に3年間の研究として採択されたことです。過去5年間は主として教育の質的向上の転換を目標にして教育改革に取り組みその成果が総合的に出てきていることであり、今後とも継続して改革に取り組んでいく必要があります。研究についても地域の実証研究は地道なものであり、これまでは研究者個人の成果としてのみ評価されてきたが、大学としてまとめて評価され、結果としてブランド化できることになり、社会総合研究所の存在が明確になりました。

第2は、スポーツ分野で本学野球部の2名の投手がドラフト会議で楽天イーグルスに1位指名、ヤクルトスワローズに3位指名をされ、入団が決定したことです。52周年になって卒業生が2万5千人を越えることにより、傑出した人材を世に送り出せるようになりました。

第3は、本学井尻昭夫学長が、本学の建学の精神である「中正な精神を有する人材育成」に長年取り組まれていることにより山陽新聞社教育功労賞を受賞されたことです。

社会総合研究所は、地域の課題を解決するための地域研究としての「研究ブランディング事業」、社会人教育の一環としての「夕学講座」、そして本学の目標を持った学生の学びの場としての「商大塾」の3つの柱がしっかりと立てられ、3本の矢としての力を発揮できる状況になっておりますので、今後ともご支援の程宜しくお願い致します。

～岡山商科大学社会総合研究所後援会について～

【趣 旨】

社会総合研究所は、地域社会の発展に寄与することを目的に設立された岡山商科大学の附属機関です。

【事 業】

社会総合研究所は「研究」、「資料収集」、「学生学習支援」の他に、対外的な3つの事業を遂行しています。

- 公開講演会・「慶應MCC夕学講座」サテライト講座・商大講座・通信教育講座
- 岡山県生涯学習大学(県委託事業)等 大学公開事業の開催
- 岡山商科大学学園誌『商大レビュー』の発行
- 地域社会の当研究所に対するニーズの把握

【後援会組織】

社会総合研究所設立趣旨の徹底を図るために後援会が設けられています。現在の後援会役員は次の通りです。

- 理事 岡崎彬(代表)、宮長雅人、桑田茂、小嶋光信、秋山進彦、江國成基
- 幹事 武田修一(代表)、服部弘平、木谷忠義、近藤弦之介、松本光雄、永山久人(敬称略)

【会 費】

無料です。

【会員の特典】

会員は、下記の特典が受けられます。

1. 『商大レビュー』等の希望者無料配布
2. 「岡山商科大学公開講演会」、「商大講座」や「慶應MCC夕学講座」等、大学公開活動の開催についてのご案内
3. 社会総合研究所および本学図書館の資料(雑誌、統計書類)のご利用

お問い合わせ

岡山商科大学社会総合研究所

〒700-8601 岡山市北区津島京町2-10-1 電話&FAX086-256-6656

編集後記

本年度も商大レビュー第27号を無事に刊行することができました。ご協力いただいた方々に改めて感謝を申し上げます。

オリンピックの開催年はいつもオリンピックネタで申し訳ありませんが、平昌オリンピックで感じたことを少し述べさせていただきます。今回のオリンピックでは、個人競技でメダルを獲得したことよりも、組織力(チーム力)で勝ち取ったメダルが多かったことが大変印象に残りました。

スピードスケート女子団体追い抜きでは、決勝相手国のオランダの方が個々の能力は上位であつても、組織力(チーム力)を持って勝ち取った金メダル。300日の強化合宿は、世界から見ると“異例”のことなのかもしれませんが、日本ではあまり不思議なことでは無いように感じられます。個々の能力強化だけでなく、チームワークで勝負する。これが日本の伝統・お家芸なのだと思います。

また、カーリングのように、選抜で代表選手を集めるのではなく、日頃から共に戦っている単独チーム(今回の平昌オリンピックではクラブチーム)が日本代表となるという方式を採用していることから、チームビルディングが重要であることがわかります。

最近の日本企業でも伸びている会社の中には、社員一人一人が生き生きと、かつ“組織力”を活かして勝負している会社が多くなってきているように感じられます。企業もスポーツも共通しているのは、個々のスキルアップとチームワークとのバランスが大切なのだと思います。このことは地域においても同様で、産学官が一体となって連携し、“地域の組織力(地域力)”を高めることが大切であり、それが岡山をもっと元気にするものと確信します。

社会総合研究所はこれからも地域社会とのつながりを大切に活動していきます。引き続き、宜しくお願い致します。(K)

商大レビュー 第27号

2018.3

掲載された記事へのご意見・ご感想等がございましたら
E-mail:syaken@po.osu.ac.jpまで。

岡山商科大学「商大Blog」
<http://sangakukan2.osu.ac.jp/>
公開講座や夕学講座、フィールドスタディなど、
「大学の今」を随時、掲載中!!



発行／岡山商科大学
〒700-8601 岡山市北区津島京町2丁目10-1
Tel.(086)252-0642 (代)
Fax.(086)255-6947

ISSN 1340 2315

編集／岡山商科大学社会総合研究所
Tel.(086)256-6656

レイアウト・製作／山陽印刷株式会社

